



# 日南町におけるロジックモデルの作成 について

提出日：平成 20 年 2 月 26 日

入 学 年	平成 18 年
学 生 番 号	7 5 3 0 - 1 8 - 8 9 2 4
所属プログラム	プロジェクト・オペレーション・マネジメント
氏 名	北原 彩佳
WS 担当教員氏名	小林 潔司

## 要旨

### 1. はじめに

日本は現在急速に少子高齢化が進み、人口減少社会へと突入している。地方では、その傾向は顕著であり、高齢化率が30%、40%の自治体も珍しくない。

高齢化が佳境に入っている地方においては、地域コミュニティの維持、自治体の財政問題、自然環境を含めた社会資本の維持管理、主力産業の衰退、若者の流出など多くの問題に直面している。

過疎化、少子高齢化に原因を発するこのような問題は、全国の過疎地自治体に共通する問題である。

このような地方自治体は、今後ポスト高齢社会に突入する。ポスト高齢社会とは、団塊の世代が鬼籍に入り、高齢化率の上昇が止まり、安定的な高齢社会になった状況で、人口形態が比較的スリム化した社会をいう。しかし、人口減少は続く訳であり、人口減少に歯止めを打つ必要性は依然そのままである。

このような現象は、今後30年で日本各地の自治体が陥るものと考えられており、過疎地地方自治体の現状は、「30年後の日本全体の問題」と考えることができる。すなわち、日本の人口減少・高齢化問題の先端を進む過疎地域の問題を解決することが、30年後の日本の社会問題を解決することにつながると考えることができる。

本稿では、上記のような問題を抱える過疎地、鳥取県日南町を対象とし、町を維持するために、町の目指す方向性や施策や行動等をロジックモデルとして作成し、過疎地のモデルとして検討していきたい。

### 2. 日南町ロジックモデルとは

ロジックモデルとは、町の現状の問題を認識した上で、町の将来の目標を設定し、その実現のために町の資源を活用しながら行政や地域、町民がどのような行動を行う必要があるかを、目標と実現のための方策の因果関係を明示しながら、系統立てて表現したものである。

日南町のロジックモデルとしては、以下のような特徴がある。従来のロジックモデルは、1)町の施策など、行政体の行動モデルであることが多い、2)ワークショップ等で町民の声を聞く機会はあるが、どう反映されているかが不明確である、3)行政・大学・町民と一体となり取り組むことは少ない、といったものであった。

これに対して、日南町ロジックモデルは、1)ロジックモデルを町民の主体性を持つ行動モデルとする、2)町民の声を客観的に反映させ、どう反映させたかを明示する、3)大学、町、

町民（個人、家族、地域、企業、各種団体等）が一体となり、様々な観点からのロジックモデルを作成する、という特徴がある。

ロジックモデルとして、因果関係を明確にすることで、合理的な政策策定や適切な政策評価が可能となり、政策の改善案を検討することができる。また、住民への透明性が高まるだけではなく、当ロジックモデルは、町民の行動モデルである点から、行政や住民、地域等町の各主体が同じ目標に向かい、その達成のために、効果的・効率的な行動を行うことができるのである。

下図が作成したロジックモデルである。

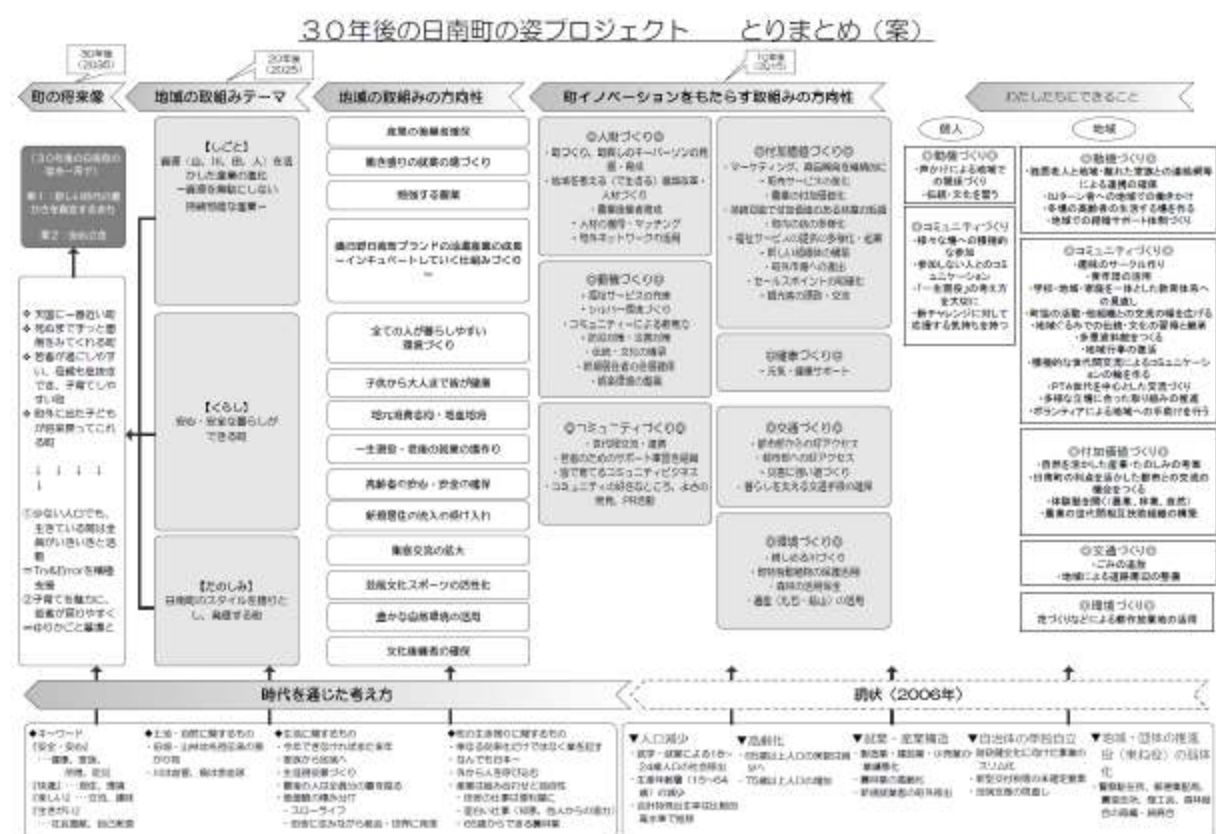


図 2-1 「30 年後の日南町の姿プロジェクト」とりまとめ（案）

各項目を「町の将来像」「地域の取組みテーマ」「地域の取組みの方向性」「町イノベーションをもたらす取組みの方向性」「わたしたちにできること」の 5 つに分類した。

まず、「町の将来像」では、将来、30 年後の日南町の姿を一言で表したものである。「新しい時代の豊かさを創造するまち」や「死ぬまでずっと面倒を見てくれるまち」といった案がある。次の「地域の取組みテーマ」として、「町の将来像」を実現するために、3 つの取組むべきテーマをあげた。町の産業や雇用である「しごと」、町民の日々の生活を支えるための「くらし」、日南町ならではのスタイルを提案する「たのしみ」、である。「しごと」

では、資源を大切にする「循環型社会」が必要とされている今、日南町がその先駆けとなるような、「日南町の資源を活かした持続可能な産業の進化」を、「くらし」では、「町民が安心・安全な暮らしができる町」を、「たのしみ」では「日南町のスタイルを誇りとし、発信する町」を目指していくこととした。そこで、「地域の取組みの方向性」では、「しごと」「くらし」「たのしみ」各項目について、どのような方策の方向性でもって、これらを実現していくか、ということを提案している。例えば、「しごと」については、「奥日野日南町ブランドの地場産業の成長」、「くらし」では、「新規居住の受け入れ」、「たのしみ」では「文化後継者の確保」などである。では、それぞれについて、その実現のために、具体的にどのような目標をもち、行動すべきか、という目標について「町イノベーションをもたらす取組みの方向性」で述べている。ここでは、「人財づくり」「動機づくり」「コミュニティづくり」「付加価値づくり」「健康づくり」「交通づくり」「環境づくり」の7つの取組みの方向性をあげている。そして、最後に「わたしたちにできること」については、今まで述べてきたことを実現するために、具体的に各主体が何を取り組むことができるか、ということをあげている。個人では、「声かけ運動」「新チャレンジに対して応援の気持ちをもつ」など、地域では、「独居老人と地域・離れた家族との連絡網等による連携の確保」などをあげている。

### 3. 日南町について

鳥取県日南町は中国山地のほぼ中央に位置し、標高 280m から 600m の間に大部分の集落と耕地が集まっている。東西に 25km、南北に 23km、という広がりを持ち、森林の占める割合が多く、総面積は 340.87 km<sup>2</sup>であり、人口密度は 19.1 人/km<sup>2</sup>である。他地域に比べ、産業で農業の占める割合が大きい。

1960 年から 2000 年の 40 年間で人口は 15286 人から半分以上の 6696 人に減少した。2000 年では、高齢者が全体の 42%の割合を占めている。今後も人口減少が続き、2030 年にはさらに半減すると考えられている。

また、MARG（過疎地研究会）が 1999 年からの日南町において開催されてきた。以上より、日南町は、日南町は日本の過疎化・高齢化を代表する町であるとともに、以前の MARG との関連があるため、対象地域とした。



### グラフ 3－1 日南町人口推計（2000～2030 年）

#### 4. ロジックモデル作成過程

ロジックモデルを作成するにあたり、「30 年後の日南町の姿プロジェクト」を発足させた。目的は、人口減少に伴う日南町に関わる諸問題を基に、MARG を中心とした有識者、町民、行政など町に関わる人々と、30 年後の日南町のあるべき姿を考え、ポスト高齢社会の過疎地のモデルとして、町民主体のロジックモデルを構築し、日南モデルを確立することである。

有識者会議やワークショップなどを通じ、町民の声を収集し、ロジックモデルを作成した。その際、毎回議事録を作成し、TFIDE 法という言語分析法を用い、科学的に客観的に分析し、ロジックモデルを構築した。

次にベースライン評価指標・アウトカム指標の検討を行う。ベースライン評価においては、図 2－1「30 年後の日南町の姿プロジェクト」とりまとめ（案）の現状（2006）「人口減少」や「高齢化率」等について、各指標、それに伴うデータを収集した。これら各指標より、日南町の現状を把握した。

また、アウトカム指標においては、図 2－1「30 年後の日南町の姿プロジェクト」とりまとめ（案）の「地域の取組みテーマ」「地域の取組みの方向性」の各項目につて、アウトカム指標を検討した。例えば、「しごと」については、「町民所得」や「若者定着率」、「くらし」については、「町民の満足度」、「たのしみ」については、「町内滞在時間」等を指標として提案している。

#### 5. おわりに

別紙 2「議事録ーロジックモデル対応表」からわかるように、これまでのワークショップでは議論されていない項目もある。このような項目に関しては、主観的に作成したものであるが、重要であると考えたものである。そのため、今後のワークショップで議論していく必要があると考える。また、新たなベースライン評価やアウトカム指標については、現状を把握したうえで、今後具体的な数値目標をたて、ロジックモデルを具体化する。

## 目次

### **1. はじめに**

- 1.1. 背景
- 1.2. ワークショップの目的

### **2. 日南町ロジックモデル**

- 2.1. 日南町ロジックモデルの特徴
- 2.2. ロジックモデルとは
- 2.3. なぜロジックモデルが必要か
- 2.4. ロジックモデルとりまとめ（案）

### **3. 日南町について**

- 3.1. 日南町の概要
- 3.2. 日南町選択理由

### **4. ロジックモデル作成過程**

- 4.1 30年後の日南町の姿プロジェクト概要
- 4.2 ロジックモデルの作成方法
- 4.3 ベースライン評価

### **5. おわりに**

## 1. はじめに

### 1.1. 背景

日本は現在、急速に少子高齢化が進み、人口減少社会へと突入している。しかし、大都市圏と地方では、その進行程度は異なり、大都市圏では、高齢化が急激に進んでいるのに対し、地方では、高齢化が峠を越し、ポスト高齢化社会へ突入しようとしている。地方における過疎地自治体は、40 数年以前から既に人口減少が始まっており、高齢化率が 30 %、40 %の自治体も珍しくないのが現状である。

高齢化が佳境に入っている地方においては、地域コミュニティの維持、自治体の財政問題、自然環境を含めた社会資本の維持管理など多くの問題に直面している。このような地方の小規模自治体は、人口減少により、一人あたりの負担が増加し、地域コミュニティの維持や施設管理、森林などの資源管理も現行のままでは困難となる。また、人口減少に伴い自主財源が減少するが、一人あたりの施設・資源管理などによる費用は増加するという財源の問題も生じる。

また、このような地方では、主力産業であった農林業や建設業は、衰退の一途をたどり、企業誘致も困難であり、新たな基幹産業を見いだすこともできない。そのため、就職・進学を機に若年人口の流出することにより、地域機能を支える人材が不足し、コミュニティの維持も困難な状況である。

過疎化、少子高齢化に原因を發するこのような問題は、全国の過疎地自治体に共通する問題である。

このような地方自治体は、ポスト高齢社会に突入する。現在の社会では日本の総人口に占める 65 歳以上の高齢者の割合が約 20%と非常に高い水準にあり、人口の分布において上層部（高齢層）が大きな割合を占めている。今後、団塊の世代が高齢者の仲間入りをし、益々高齢化が進展すると考えられる。しかし、その高齢者や同じく人口の割合の多くを占める団塊の世代がいなくなる 30 年後は上層部の人口が一斉に減少し、現在よりも比較的人口分布の差が小さい社会が実現するのではないかと考えられる。ポスト高齢社会とは、高齢化率の上昇が止まり、安定的な高齢社会になった状況で、現在の高齢社会が終わり、人口が減少し人口形態が比較的スリム化した社会をいう。安定的ではあるが、高齢化率は 40 %前後で推移する。また、人口減少は続く訳であり、人口減少に歯止めを打つ必要性は依然そのままである。

このような現象は、今後 30 年で日本各地の自治体が陥るものと考えられており、過疎地地方自治体の現状は、「30 年後の日本全体の問題」と考えることができる。日本はすでに人口減少社会に突入し、高齢化の進行も著しい。日本の先行地域である過疎地域の地方システムが破綻するということは、「30 年後の日本が破綻する」と考えられる。すなわち、日本の人口減少・高齢化問題の先端を進む過疎地域の問題を解決することが、30 年後の

日本の社会問題を解決することにつながると考えることができる。

本稿では、上記のような問題を抱える過疎地、鳥取県日南町を対象とし、町の目指す方向性や施策や行動等をロジックモデルとして作成し、過疎地のモデルとして検討していきたい。

## 1.2. ワークショップの目的

上記で述べたように、日本の地方自治体では、過疎化、高齢化が急速に進み、地域コミュニティの維持、自治体の財政問題、社会資本の維持管理、主力産業の衰退など様々な問題を抱えている。団塊の世代が鬼籍に入る 30 年後は、高齢層の人口実数は減少に転じるものの、高齢化率の高い推移に変わりはなく、人口減少においても、予断を許さない状況である。また、これは現在の過疎地に限った問題ではない。今後益々日本各地で過疎化は進むものと考えられる。

地方自治体は、このような過疎化、高齢化に歯止めをかける必要があると同時に、人口が減少した中で地域を維持していく必要がある。

そこで、当ワークショップでは、過疎地自治体である、鳥取県日南町を対象に、町を維持するために、町の将来像を描き、その実現のための方策を行政・町民（個人、家族、地域、企業等各主体）・大学が一体となり、ロジックモデルを作成することで、検討していきたい。

## 2. 日南町ロジックモデル

### 2.1. 日南町ロジックモデルの特徴

当ワークショップで構築する日南町の将来像とその実現のための方策を示すロジックモデルには、以下の 3 点の特徴がある。

従来のロジックモデルは、1)町の施策など、行政体の行動モデルであることが多い、2)ワークショップ等で町民の声を聞く機会はあるが、どう反映されているかが不明確である、3)行政・大学・町民と一体となり取り組むことは少ない、といったものであった。

これに対して、日南町ロジックモデルは、1)ロジックモデルを町民の主体性を持つ行動モデルとする。つまり、町民が自ら問題を発掘し、その解決のために何ができるか町民のプロジェクトへの参加を通じ、考える。また、目標を定め、その達成のための行動を町民自らが考える。2)町民の声を客観的に反映させ、どう反映させたかを明示する。3)大学、町、町民（個人、家族、地域、企業、各種団体等）が一体となり、定期的な三者間で議論をすることにより、情報共有し、互いが勉強する機会となる。そして、様々な観点からのロジックモデルを作成する、という特徴がある。

前述したように、過疎化地域では、人口減少による財源の減少などにより、行政に頼る



ばかりの施策は現実問題困難な状況である。そのため、地域コミュニティの維持や社会資本の維持管理などにおいて、町民が果たす役割は大きくなっていると考ええる。

よって、町民自らが地域の維持・発展にむけて行動していくための、ロジックモデルは大変重要である。

## 2.2. ロジックモデルとは

ここで、ロジックモデルについて説明する。ロジックモデルは、1998年にW.Kケログ財団が発行した「W.Kケログ財団評価ハンドブック」では以下のように定義されている。

「基本的にロジックモデルとは、あなたのプログラムで運営する資源、計画した活動、達成したい変化や結果の関係についてあなたの理解を共有するために、系統立てて見える形式に表現したものである。最も基礎的なロジックモデルは、あなたのプログラムがどのように機能するかを図化したものである。活動がどのような流れで変化をもたらすか、その活動がプログラムが達成することを期待されている結果にどのようにつながっているかを図及び言葉により表現する。」1)

つまり、ここで作成する日南町のロジックモデルは、町の現状の問題を認識した上で、町の将来の目標を設定し、その実現のために町の資源を活用しながら行政や地域、町民がどのような行動を行う必要があるかを、目標と実現のための方策の因果関係を明示しながら、系統立てて表現したものである。

## 2.3. なぜロジックモデルが必要か

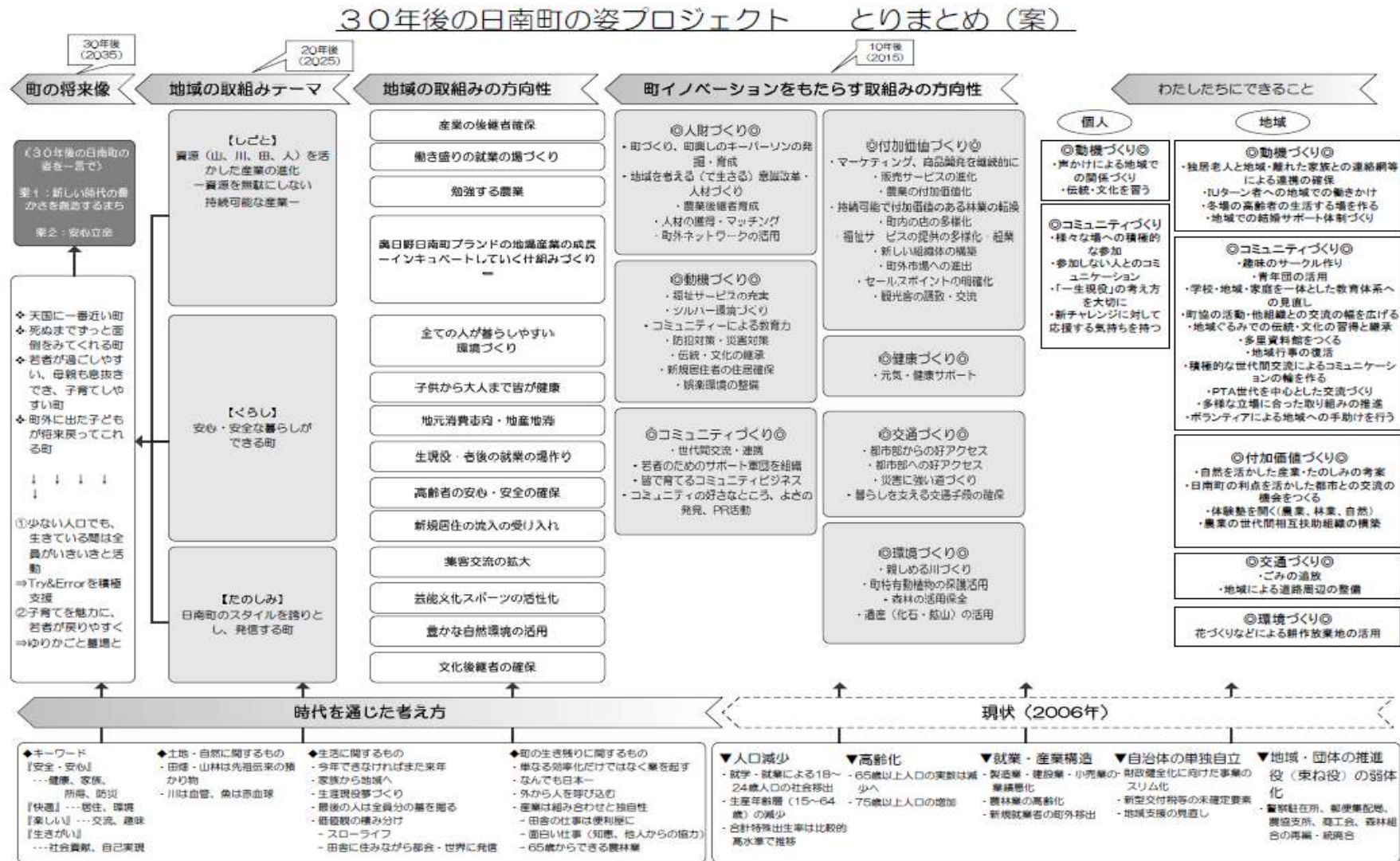
ロジックモデルは、政策目標達成のための手段と目的を因果関係を明確にし、その各項目の達成水準を数値目標で明示したものである。因果関係を明確にすることで、合理的な政策策定や適切な政策評価が可能となり、政策の改善案を検討することができる。また、住民への透明性が高まるだけでなく、当ロジックモデルは、町民の行動モデルである点からして、行政や住民、地域等町の各主体が同じ目標に向かい、その達成のために、効果的・効率的な行動を行うことができるのである。

## 2.4. ロジックモデルとりまとめ（案）

下図は、作成したロジックモデルである。後に作成過程を詳しく述べるが、有識者、行政、町民が参加する、有識者会議（合同会議）やワークショップ、まちづくり懇談会を受けて、作成した。各項目を「町の将来像」「地域の取組みテーマ」「地域の取組みの方向性」「町イノベーションをもたらす取組みの方向性」「わたしたちにできること」の5つに分類した。

まず、「町の将来像」では、将来、30年後の日南町の姿を一言で表したものである。「新しい時代の豊かさを創造するまち」や「死ぬまでずっと面倒を見てくれるまち」といった案がある。次の「地域の取組みテーマ」として、「町の将来像」を実現するために、3つの取組むべきテーマをあげた。町の産業や雇用である「しごと」、町民の日々の生活を支えるための「暮らし」、日南町ならではのスタイルを提案する「たのしみ」、である。「しごと」では、資源を大切にする「循環型社会」が必要とされている今、日南町がその先駆けとなるような、「日南町の資源を活かした持続可能な産業の進化」を、「暮らし」では、「町民が安心・安全な暮らしができる町」を、「たのしみ」では「日南町のスタイルを誇りとし、発信する町」を目指していくこととした。そこで、「地域の取組みの方向性」では、「しごと」「暮らし」「たのしみ」各項目について、どのような方策の方向性でもって、これらを実現していくか、ということを提案している。例えば、「しごと」については、「奥日野日南町ブランドの地場産業の成長」、「暮らし」では、「新規居住の受け入れ」、「たのしみ」では「文化後継者の確保」などである。では、それぞれについて、その実現のために、具体的にどのような目標をもち、行動すべきか、という目標について「町イノベーションをもたらす取組みの方向性」で述べている。ここでは、「人財づくり」「動機づくり」「コミュニティづくり」「付加価値づくり」「健康づくり」「交通づくり」「環境づくり」の7つの取組みの方向性をあげている。「人財づくり」では、「地域を考える人材づくり」、や「町興しを行うキーパーソンの発掘・育成」など、人財育成について、「動機づくり」では、「コミュニティによる教育力」など、「日南町に住みたい」「魅力的」だと思えるようにするための方向性を、「コミュニティづくり」では「世代間交流・連携」など、地域でのつながりを大切にした方向性を、「付加価値づくり」では、「マーケティング・商品開発を継続的に」など、日南町から付加価値を生み出すための主に「しごと」に関する方向性を、「健康づくり」では、町民の健康のための方向性を、「交通づくり」では、「暮らしを支える交通手段の確保」など町民の快適な生活を支える交通のための方向性を、そして、「環境づくり」では、「親しめる川づくり」など日南町の資源の活かし方について述べている。そして、最後に「わたしたちにできること」については、今まで述べてきたことを実現するために、具体的に各主体が何を取り組むことができるか、ということをおげている。個人では、「声かけ運動」「新チャレンジに対して応援の気持ちをもつ」など、地域では、「独居老人と地域・離れた家族との連絡網等による連携の確保」などをあげている。

図 2-1 「30年後の日南町の姿プロジェクト」とりまとめ（案）



### 3. 日南町について

#### 3.1. 日南町の概要

##### 3.1.1. 位置、歴史、産業

###### 3.1.1.1. 位置・面積

中国山地のほぼ中央に位置し、島根、岡山、広島の三県に接する中国地方のへそであり、山陰・山陽を結ぶＪＲ伯備線の要路となっている。河川の流域を中心に田園が広がり、標高２８０ｍから６００ｍの間に大部分の集落と耕地が集まっている。平均気温は、標高４９０ｍの地区で約１１度、降水量は年間約２０００ミリで、冷涼多雨な気候である。

東西に２５ｋｍ、南北に２３ｋｍ、という広がりを持ち、森林の占める割合が多く、総面積は３４０．８７㎢であり、人口密度は１９．１人/㎢である。

###### 3.1.1.2. 歴史

古来より鉄の産地であり、弥生時代には鉦（たたら）製鉄を行いながら定住していたと推定されている。１８６３年の記録では、この地の戸数は１９８０戸であり、２０００年現在の２２５５戸に近い。当時の日本人口は約３５００万人程度と推計されており、往事の隆盛がしのばれる。その後、明治、昭和の大合併を経て、昭和３４年に現在の日南町となる。

###### 3.1.1.3. 産業

２０００年の第一次産業就業者数１１９０人、第二次産業就業者９９１人、第三次産業就業者１４４０人となっている。農産物全体の販売額は２０００年約１０億円であり、その中で米が４０％、野菜が２３％、酪農関係が３２％を占めている。

###### 3.1.1.4. 人口

１９６０年から２０００年の４０年間で人口は１５，２８６人から半分以下の６，６９６人に減少した。また、世帯数においても３，１２５世帯から２，２５５世帯と約３分の２に減少した。これらは現在も減りつづけている。

２０００年では、高齢者が全体の４２％の割合を占めている。今後も人口減少が続き、２０１５年には４９００人、２０３０年には３５８９人になると見込まれている。



### グラフ 3-1 日南町人口推計（2000～2030 年）

表 3-1 人口推計値

	2000年		2015年		2030年	
	人口(人)	%	人口(人)	%	人口(人)	%
0～14歳	789	12%	478	10%	343	10%
15～64歳	3,216	48%	2,207	45%	1,622	45%
65～74歳	1,512	23%	717	15%	552	15%
75～	1,179	18%	1,506	31%	1,072	30%
合計	6,696		4,908		3,589	

#### 3.2. 日南町選択理由

今回町民主体のロジックモデルを作成するにあたり、日南町を対象地域とした理由は、以下で 2 点述べる。

1) 2.1 で述べたように、現在、日南町は過疎化・高齢化を中心とした現象を背景に、2030 年には人口が 2000 年に比べ、半減すると予想されており、「人口が減りつづける町」へと向かう流れを変えることができない状況にある。このような状況は今後地方で次々と起こり得ることであり、日南町が直面する複雑化した課題は今後の日本各地での課題でもある。よって、「日本の 30 年先に行く町」日南町の地域システムが仮に今後も成立しないとすれば、日本の今後に大きな課題を提起することにもなる。そのため、日南町が 30 年後の地方自治体のモデルとしてシステムを構築することは 30 年後の日本社会で実用可能なシステムを構築することにつながるのである。

2) また、1999 年から現在まで約 20 回、日南町で MARG (Marginal Areas Research Group) という過疎地域研究会が開催されてきた。当研究会は日南町をモデルとした人口減少とそれともなう地域の活力の減退による生活手段の確保や介護の問題さらには地域の維持保存など、過疎地域の問題に対して理解を深め、諸問題の解決と地域の発展に向けて研究を積み重ねている。具体的には、「農山村集落の資源利用と集落活性化の方策」「日本の森林・林業と林業労働力問題の展望」「過疎・高齢化地域における生活機能」「日南町における都市ー農山村交流の方向性」「人口減少・高齢化地域における交通弱者の行動パターンと交通安全対策に関する研究」「国産木材流通の変化と森林管理」「日南町公共交通の社会実験に向けた取り組み」等が議論・研究してきた。また、アクティビティ・ダイアリー調査、交通システム調査等の現地調査を実施し、町の実態の把握を行った。

以上のように、日南町は日本の過疎化・高齢化を代表する町であるとともに、以前から

の MARG（過疎地研究会）との関連から日南町を対象の町とした。

#### 4. ロジックモデル作成過程

##### 4.1. 30 年後の日南町の姿プロジェクト概要

###### 4.1.1. プロジェクトの目的

日南町の現状や今後の推移、「自立のための行財政改革基本方針」などをふまえ、「30 年後の日南町の姿プロジェクト」を平成18年7月に立ち上げた。

当プロジェクトの目的は、人口減少に伴う日南町に関わる諸問題を基に、MARG を中心とした有識者、町民、行政など町に関わる人々と、30 年後の日南町のあるべき姿を考え、ポスト高齢社会の過疎地のモデルとして、町民主体のロジックモデルを構築し、日南モデルを確立することである。

日南モデル構築のための当プロジェクトの具体的な内容としては、現状の問題を町全体の共通認識とした上で、1)「30 年後の日南町の姿」を描くこと 2)「30 年後の日南町の姿」実現のための方策を検討すること、である。外部環境を考慮した上で、日南町の強みを生かしつつ、町民にとって、望ましい日南町の姿を町民が主体となって描いていくことが、1.3 で述べたように、「30 年後の日南町の姿」を描く際には重要となる。また、実現のための方策を検討する際には、町が存続するための地域マネジメントシステムを再構築し、行政としての町だけではなく、町民が主体的に地域マネジメントに参画する意識を持ち、その仕組みを作ることが必要となる。

###### 4.1.2. 検討分野

具体的な検討分野は、1)理念・ビジョン 2)将来推計 3)財政シミュレーションなどによる実行可能性の検証、政策の評価 4)インフラ資産（上下水道、道路、交通など）の維持・管理分野の検討 5)社会福祉・教育などの検討 6)産業・居住政策などの検討 7)自然環境の保全・活用分野の検討、である。

1)理念・ビジョンの検討としては、町民の幸せとはどういうことかを中心に置き、将来の望ましい日南町の姿を描き、その実現方策を検討する。2)将来推計 3)財政シミュレーションでは、人口構成、人口分布などの推計と財政、産業など各種指標の推計を行い、また政策（案）の具体的な数値目標や評価につなげる。さらに、4)インフラ資産（上下水道、道路、交通など）の維持・管理分野の検討 5)社会福祉・教育などの検討 6)産業・居住政策などの検討 7)自然環境の保全・活用分野の検討、については、「しごと」「暮らし」「たのしみ」の3つに分類して検討した。

平成20年まで3カ年かけて、この検討事項を構想としてとりまとめ、平成21年度からスタートする第5次総合計画の基本構想として活用することとしている。

#### 4.1.3. 会議開催日程

「30年後の日南町の姿プロジェクト」では、有識者会議と有識者会議幹事会の二つの会議がある。有識者会議とは、町、有識者委員、実行委員、作業チーム、地域有志者、事務局が参加する正式な合同会議である。また有識者会議幹事会では、有識者会議にむけた事前打ち合わせなどが行われる。

平成18年から現在までの「30年後の日南町の姿プロジェクト」の開催日程は以下のとおりである。

平成18年	7月20日	第1回有識者会議
平成18年	9月9日	第1回有識者会議幹事会
平成18年	10月13日	第2回有識者会議
平成18年	10月14日	第2回有識者会議幹事会
平成18年	11月19日	第3回有識者会議幹事会
平成19年	1月9日	第3回有識者会議
平成19年	2月24日	第4回有識者会議幹事会
平成19年	4月15日	第5回有識者会議幹事会
平成19年	4月16日	第4回有識者会議
平成19年	9月30日	第6回有識者会議幹事会
平成19年	12月26日	第7回有識者会議幹事会
平成19年	12月27日	第5回有識者会議
平成20年	2月16日	第8回有識者会議幹事会

#### 4.1.4. 各有識者会議の概要

##### ● 第1回有識者会議

参加者は、町、有識者委員、実行委員会、作業チーム、事務局である。議事概要としては、問題意識の共有として、事務局、有識者より「少子高齢化社会における地方部の住まい方と社会基盤」「人口減少社会における遊びの視点」「農村集落の活性化とその条件」「日南町における人口推移とその分析」について話題提供を行い、問題意識の共有がなされた。

この会議のアウトプットとして、組織の構築が行われた。今後図 3-1 の組織体制でプロジェクトが推進されることとなる。

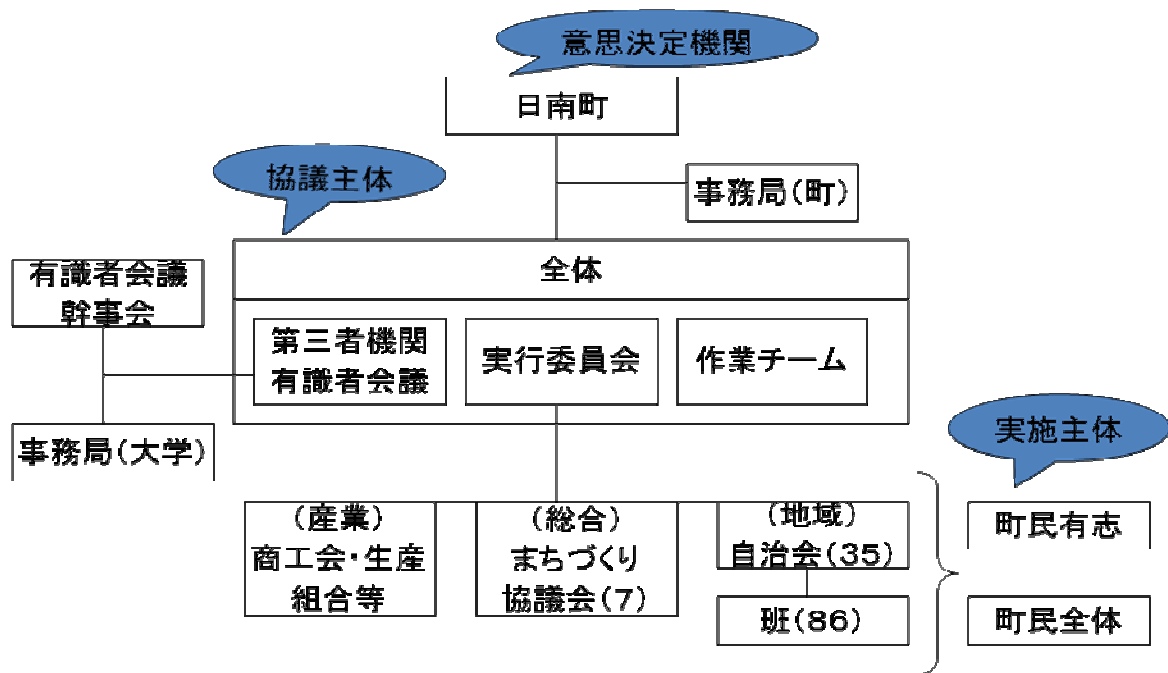


図 4-1 プロジェクト組織体制

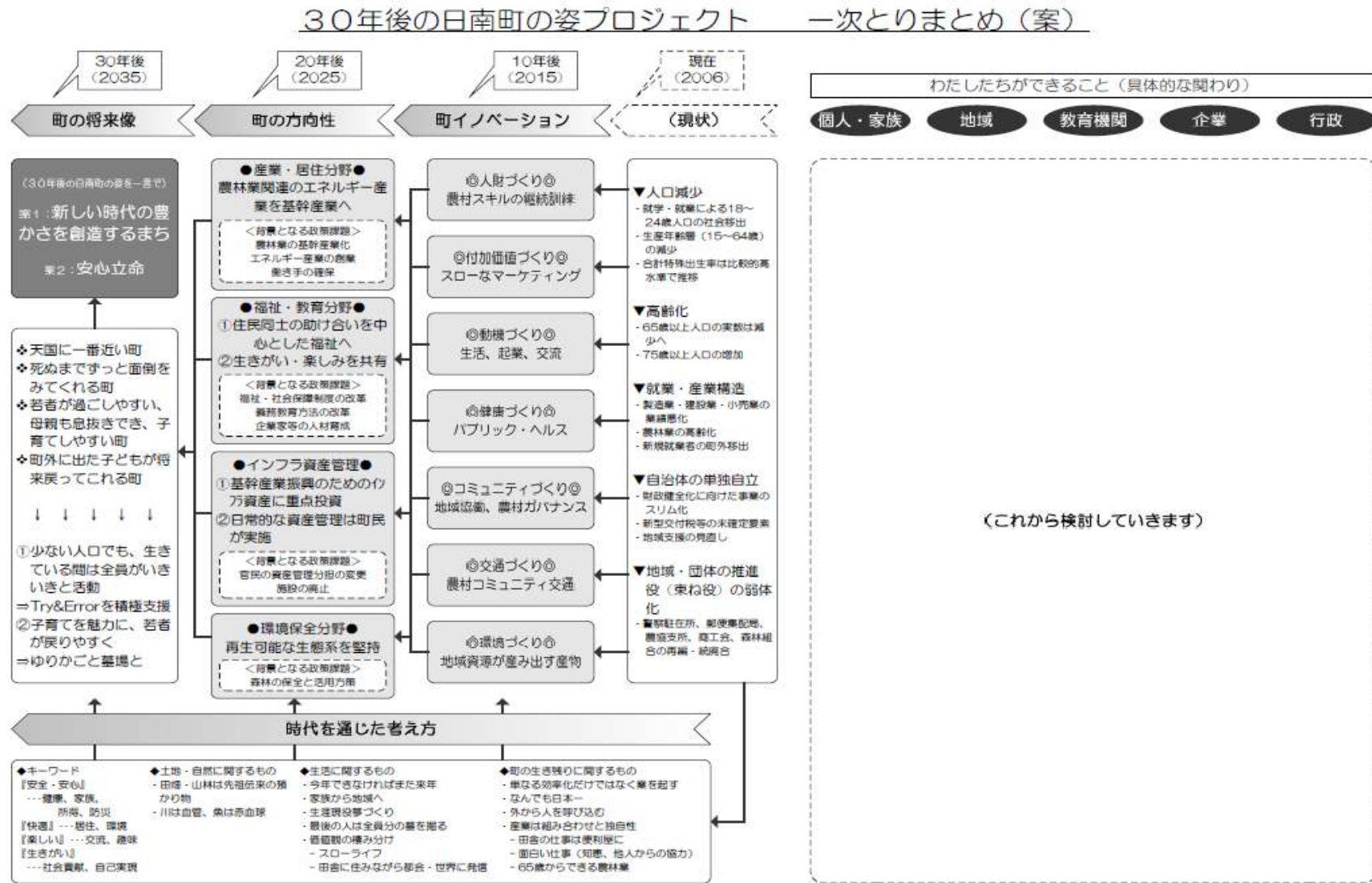
● 第 2 回有識者会議

参加者は、町、有識者委員、実行委員、作業チーム、地域有志者、事務局である。前回とは異なり、地域有志者が参加した。今後の有識者会議では、地域有志者も参加し、議論に加わることとなる。議事概要としては、事務局、有識者より、「日南町の人口シミュレーション」「30 年後の状況と地域内発力の醸成・維持・活用」「AD 調査からわかる住民の満足度」より話題提供がなされ、実行委員、地域有志者より、町内の取組が紹介された。

今回の会議を踏まえ、委員より、「30 年後の日南町の姿プロジェクト 一次とりまとめ(案)」がアウトプットとして出された。これを図 4-2 で示す。

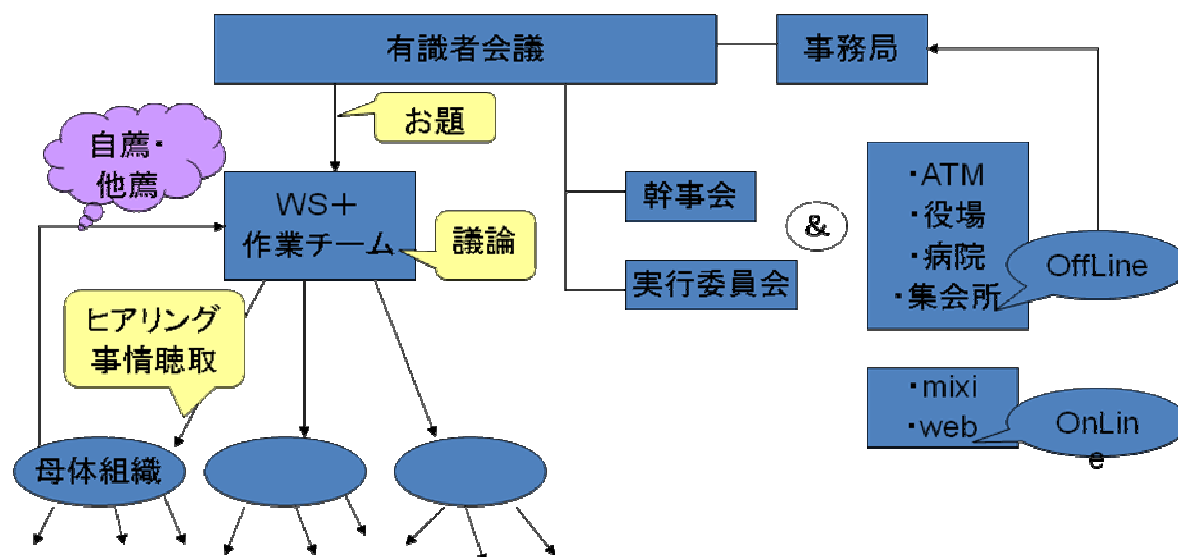


図4-2 30年後の日南町の姿プロジェクト 一次とりまとめ（案）



参加者は、町、有識者委員、実行委員、作業チーム、地域有志者、事務局である。議事概要としては、有識者委員より、「日南町のイノベーションのアイデアスケッチ」「『30年後の日南町の姿プロジェクト』・一次とりまとめ（案）」について提案され、意見交換がなされた。

参加者は、町、県、有識者委員、実行委員、作業チーム、地域有志者、地域振興センター事務長、事務局である。議事概要としては、今後町民から意見収集を行い、町民の主体性を高めるために、ワークショップを行うにあたり、その進め方、体制について確認した。ワークショップの組織体制は図3-3で示す。このワークショップのために事前に町で行ったファシリテーター研修や町で行った簡易アンケートの結果について報告した。



● 第5回有識者会議

18

## 4.2. ワークショップ

### 4.2.1. ワークショップの体制

ワークショップの体制としては、「しごと」WS、「くらし・たのしみ」WS という2種類のワークショップを行った。「しごと」WSでは、メンバーは事業者中心である。このWSでは、日南町の産業の方向性を検討するとともに、事業の種を作り、具体的な事業化に進めていくことを目標としている。「くらし・たのしみ」WSでは、地域の各種団体のメンバーや個人が町民が町で生活していく上で、町民が求める暮らし方、楽しみ方はどのようなものか、町内資源を有効に活用した暮らしや楽しみを考える。

### 4.2.2. ワークショップの目的

ワークショップの目的は、1)ロジックモデル作成において、町民の行動モデルをつくること 2)次年度に行う、パイロット事業を発掘すること 3)町民が自ら作り上げたという意識をもつことで、その積極的な実行を促すことである。

上記で述べたように、過疎化地域では、人口減少による財源の減少などにより、行政に頼るばかりの施策は現実問題困難な状況である。そのため、地域コミュニティの維持や社会資本の維持管理などにおいて、町民が果たす役割は大きくなっていると考え。そのため、ロジックモデルを作成する際には、町民の意見を抽出すること、また、作成過程において、町民の主体性、実効性を高めることが重要となる。町民の行動モデルとするにあたり、将来どのような町の姿が望ましいか、町の発展のためにどう行動すべきか、について、町民が自らのこととして考えることが望まれるのである。そのため、ワークショップを開催し、町民が参加し、意見を出し合い、それをロジックモデルに目に見える形で反映させることで、プロジェクトへの参加意識を高め、その実現への行動を促す。

### 4.2.3. ワークショップ・まちづくり懇談会の開催日程

町民の声を直に収集する機会であるワークショップ・まちづくり懇談会の開催日程は以下のとおりである。ワークショップは当プロジェクトの一部であるが、まちづくり懇談会はプロジェクトとは別の町主催の会合である。しかし、まちづくり懇談会は、各地域での町民の意見を収集する好機会であると考え、まちづくり懇談会における町民の声もロジックモデルに反映させている。

平成19年6月13日 第1回しごとワークショップ

平成19年7月11日 第2回しごとワークショップ

平成19年8月21日	阿毘縁まちづくり協議会 理事・事務局会
平成19年8月22日	第3回しごとワークショップ
平成19年8月24日	多里まちづくり協議会 「こどもワークショップ」
平成19年8月25日	福栄まちづくり懇談会
平成19年8月26日	大宮まちづくり懇談会
平成19年8月28日	日野上まちづくり懇談会
平成19年8月29日	多里まちづくり懇談会
平成19年8月30日	大宮 菅沢ダム水源地域ビジョン推進協議会
平成19年8月31日	石見まちづくり懇談会
平成19年9月 3日	石見まちづくり協議会 「石見川を魚のすめる環境にするためのワークショップ」
平成19年9月 3日	山上まちづくり懇談会
平成19年9月 4日	阿毘縁むらづくり懇談会
平成19年9月10日	多里 くらし・たのしみワークショップ
平成19年9月11日	阿毘縁 くらし・たのしみワークショップ

#### 4.2.4 各ワークショップ・まちづくり懇談会の内容

ワークショップでは、「しごと」ワークショップと「くらし・たのしみ」ワークショップを行った。各ワークショップ・まちづくり懇談会の内容は以下で示す。

● 「しごと」ワークショップ

「しごと」ワークショップは現在のところ、3回行っている。各概要は以下の通りである。

➤ 第1回

業界や事業者の現状・課題について洗い出す。建設業衰退時である数年前から、住民の所得が減り、購買力が低下しているということが町の現状である。事業者は事業の先行きに不安があり、他業種への模索、自社製品の開発なども始まっている。

➤ 第2回

餅の台湾輸出に取り組んだ経験をもとに、もち米の発展の可能性と課題について話題提供がなされる。日南町にあるものとして「木、米、（トマト）」、ないもの「住宅」があげられ、これらについて事業シミュレーションを行っていくことがよいのではないか、という提案があった。

第3回

農業をテーマに、売れる新規農産物、加工品、販売方法などについて検討した。他との

違いや自製品の特徴などのセールスポイントを明確化することが重要となる。日南町独自の物語と組み合わせたストーリー性のある製品が売れるためにはよいのではないか、という意見が出された。

- 「くらし・たのしみ」ワークショップ

「くらし・たのしみ」ワークショップは、「多里」「阿毘縁」地域でのワークショップ、「多里」地域でのこどもワークショップを行った。

- 「多里」「阿毘縁」ワークショップ

「くらし・たのしみ」ワークショップについては、現在のところ、阿毘縁、多里地域において実施した。テーマは、「地域のよいところ（場所・もの・人・こと）」「いまひとつなところ（地理的条件・行動・言動・心配なこと）」「こうなっていきたい未来像」「そのためにできることや必要なこと」のテーマで行った。

各地域の参加者は、多里では、多里まちづくり協議会、PTA、青年団、子育てサークル、ボランティアサークル、自治会、女性グループなど、21人、4グループである。また、阿毘縁地域では、阿毘縁むらづくり協議会では、19人、2グループで行った。

結果として、以下のような意見が出された。

### ○よいところ

自然が豊か、空気・水・地域で採れる食べ物がおいしい、県境（他県に近い）、見に来てもらいたい資源がある、人情豊か、人が元気といった、人間関係の温かさや、自然環境の豊かさなどがあげられた。

### ○いまひとつなところ

「新しいチャレンジに冷たい、かけぐちがある、自信がない」「腰が重い、一部に頼りすぎ」「若者や若者が住める環境が少ない、店が少ない、交通が不便」「雪が多い、働くところが少ない」「山や農地が荒れている」といった、新しいことを奨励しない風土や、環境に関して多く意見がだされた。

### ○なりたい姿（そのために必要なこと）

若者やこどもの多い地域では、「住宅整備、お見合い復活、干渉しない、サポート体制づくり、Iターン・Uターン受入、働く場をつくること」が、高齢者や独居でも安心して住める地域として、「サポート体制づくり、声かけ、仲間づくり、世代間交流、冬期グループホームなど」が、また、人が寄ってくる地域にするために、「観光資源の活用、特産品づくり、自然の保護、文化伝承、地域を知る、誇りをもつこと」が、協力しあえる、他人や地域のことを考える地域にするために、「声かけ、意識改革、いくつになっても役割をもつこと、勤めながらできる仕組みづくりが、農業、農産物加工で経済を豊かにするために「特産品づくり、環境をいかした作物づくり、指導者の育成」が必要である、という意

見がだされた。

➤ 多里こどもワークショップ

また、多里まちづくり協議会が実施する小学生参加のサマースクールで、こどもワークショップを行った。参加者は10人である。テーマとして、「多里のよいところ、すきなところ」「多里がこうだったらいいのにな」という2つについて行った。

○よいところ

自然について、「船通山（イチイの木）などの山、化石、川やオオサンショウウオ」など資源が豊富なこと、学校に関して、「少人数だが仲良く協力している、テニスやプールが楽しい、地域食材を使った給食がおいしい」など学校生活が楽しいこと、地域に関しては、「学校行事やまつりなど地域との関わりがある」「家が好き」などの意見がだされた。

○多里がこうだったらいいのにな

「駄菓子屋、ケーキ屋、100円ショップ、大規模店、ゲームセンター、映画館、遊園地、キッザニア、などが欲しい」といった、娯楽施設が少ないために、欲しいといった意見や、「米子までの高速道路、現在の路線以外にもバスが欲しい」といった、交通の不便さや、「友達をもっとたくさん欲しい」といった人口が少ないため、友達も少ないといった意見がだされた。

石見川ワークショップについては、日南町の主流である石見川を守ることを目的に専門家も含め、行ったものである。河川の見学も行った。

➤ 石見川ワークショップ

石見川を魚がすめる環境にするためのワークショップでは、30人が参加し、石見川について、かつての姿、川の様子について思うことを出し合った。

魚が減ったことに関しては、「水量減ったこと」、「山が荒廃している」、「砂で、石と石の間が埋まって、魚が入れない」といった意見がだされた。また、**魚の生息環境をよくするために**、「流れの確保のため、川をきれいに」「かつての川の様子を地図におとしてみる、などを地域をあげて魚の保護につとめる」など、石見川の環境保護に、

また、地域と行政の協働のまちづくりを目指して『まちづくり懇談会』を行った。テーマは事前に各まちづくり協議会から出されたものである。各まちづくり懇談会に関して概

要を述べる。

➤ 福栄まちづくり懇談会

1)日南町の活性化ビジョンとして、日南町をアピールする観光事業の取り組みや効果など説明してほしいとの意見が出された。町としては、観光に力を入れないという訳ではないが、今、定住・若者対策に力を入れている。地元が地元のPRの仕方、地元を知らないことが多いので、勉強しなければならない。

2)若者定住対策（小学校統合、結婚、仕事、住宅）として、統合後の小学校の場所について、現時点での見解や廃校の利用方法の紹介や、行政は公営住宅の増設整備は考えていないことが民間業者の参入を支援するかたちで取り組みたいことを説明がなされた。

➤ 大宮まちづくり懇談会

1)高齢化によって耕作できない家が増えている。印賀の法人組織の経営についての紹介など、みんなで取り組みやすい制度を望む声があった。行政側は、他の地域での林業－農業、商業－林業の取り組み方などを紹介し、一次産品だけでなく加工まで考えたまちづくりを実践すれば、農業でも可能ではと提案した。

2)菅沢ダムと連携したまちづくり事業について、里山まつりは天候が悪かったが、270人あまりのお客さんがあった、遊歩道や東屋の周辺を整備してほしいと要望があり、行政は、今後、地元と一緒にした整備活動を提案した。

➤ 日野上まちづくり懇談会

1)地域のまちづくりを考える際、自治会との役割分担など地域に合ったかたちのまち協をつくってほしい旨を行政より説明した。

2)高齢化に伴う独居世帯等の支援活動について、独居世帯が増えてきたことから、行政が高齢者が健康で自立した生活を送れるための施策、民生児童委員による見守り、社会福祉協議会の見守り「まごころサービス」、介護予防の会「まめな会」などを紹介した。高齢者の対応については、行政や地域だけの単独ではできないので、連携して取り組む必要があることが議論された。

➤ 多里まちづくり懇談会

1)町主催の体育/文化行事の見直し、100kmマラソン、運動会など、行事を反省したり、見直すことも必要ではと提案された。100kmマラソンはお金をかけず、無理をしない中で日南町らしさの人情味のあふれる大会ということで評価されているので、そのような中での継続をと実行委員会では考えていると説明された。しかし、事務局の体制は、工夫と

努力が不足しており、ボランティアの志気を下げる原因にもなっており改善を求める意見がだされた。

2)地域資源の有効活用に向けて町と地域の協働について、多里にある様々な観光資源を活用していくことについて議論した。町内で可能なのは観光でなく、交流であることをとらえ、地域のファンを増やしていくことを考えるのが大切である。また、県を越えての交流は、県境サミットの予定もあるので、町として支援ではとの意見が出された。

➤ 石見まちづくり懇談会

1)生活安全と防犯への取り組みについて、まち協で行ったアンケート調査では、高齢者への訪問販売や振り込め詐欺などへの不安が多かったことを受け、地域で対応マニュアルを作成することが話され、行政でも取り組みたいなど、住民の不安解消の方法について議論された。また、高齢者は日常の買い物について不便を感じていること、介護保険や社会福祉協議会のサポート体制について紹介しながら、特効薬的な施策がないことから、地域での互助の必要性について議論した。

2)小学校統合後の校舎の活用廃校になった校舎や体育館の利用については、地域の避難所という性格も視野に入れ、議論された。

3)少子高齢化と人口減に伴う「まち」のあり方について、町の人口が減り、高齢化進み、独居が増えていく中で、この町で住み続けたい人に住み続けさせてあげる体制づくりが必要になってくるのではないかと議論された。行政としては、18～24歳がコンスタントに就業できる形態をつくっていくということを最優先で考えるべきであるとしている。公だけでなく民間とも連携して、便利な地域に施設をつくったりして、困ったときにはそこに入ることができる選択肢を用意することも考えておかないといけないのではないかなどの意見がだされた。

➤ 山上まちづくり懇談会

1)地域の交通問題について、10月からのバスの社会実験について行政から説明された。

2)希少動植物の保全については、ヒメボタルの保全をしながら、お客さんにもきてもらえるようにすることを県の環境部門や野生動植物の専門家なども交えて考えていくことを決めた。

➤ 阿毘縁まちづくり懇談会

1)地域農業のあり方について議論された。高齢化で耕作できなくなっている一方で立地条件を活かした花の苗の栽培や和牛生産に若い世代が取り組んでいる現状もある。行政からはピーマンを集団で作るなど、農家でない人も含めてできることの紹介や林業－農業、商業－農業の取り組みの紹介もなされた。



## 2)阿毘縁まなび宿の活用

まなび宿の第1の利用者は音楽家であり、今後、陶芸家、工芸家も予定されており、改修の必要性が生じることもあるかもしれないが、なるべく受け入れていきたい。行政としての考えはどうかとの問いに、現在よい状態であること、その都度協議してほしいが、行政としては改修は考えていない旨を説明された。

豪雪時に、冬期間のグループホームなどの必要性も感じたということから、雪の量に左右される使用頻度の問題もあるが、この面での活用も相談したいとした。

### 4.3. ロジックモデルの作成

#### 4.3.1. ロジックモデル作成のためのコーパス作りの過程

##### 4.3.1.1. ワークショップの実施

ロジックモデルを町民の行動モデルとすること、そして、町民が自らのこととして、町の発展のためにどう動いていくかということ、町民のプロジェクトへの参加を通じ、共に考えていくことを目的とし、ワークショップを実施した。

3.2 で詳しく述べたが、各ワークショップ実施状況は、以下の通りである。

- 第1回～第3回「しごと」ワークショップ
- 多里「くらし・たのしみ」ワークショップ（小学生、大人）
- 阿毘縁「くらし・たのしみ」ワークショップ（大人）
- 石見川ワークショップ

また、町主催で開催された各地域のまちづくり協議会における意見も収集した。

- 各地域のまちづくり懇談会

##### 4.3.1.2 コーパスの作成

これら各 WS、各まちづくり懇談会における議論から客観性を持ったロジックモデルにするために、科学的に分析する必要がある。そこで、TF・IDF 法を用いた言語分析を行う。まず、はじめに始めにコーパスを作成する。

コーパスとは、集成テキストを表し、参加者がどのように言語を使用してきたかを示す大規模なサンプルで、町民の声の集大成であるといえる。そこで、コーパスとして、各まちづくり懇談会、各「しごと」「くらし・たのしみ」WS について、詳細な議事録を作成した。手順としては、以下の通りである。

- まちづくり協議会、しごと WS
  - ①各会議を録音する。
  - ②全ての発言について議事録を作成する。議事録作成の際には、各発言における個人

を特定する。

- 暮らし・楽しみワークショップ

①数グループごとに、**KJ** 法により、意見を収集する。

②**KJ** 法から、各意見に対し、主語・述語の単純な文章を作成し、議事録とする。ここでは、個人は特定できていない。小学生ワークショップでは、「小学生」とのみ記述し、大人ワークショップでは、「若手」「女性」「高齢者」と各グループの多数を占める構成員を議事録では記述している。

議事録は**付録 1**となっている。ここから、各議事録を各発言に分割し、それらに番号を振付けたものである。各発言とは、句点「。」で区切られた議事録中の文章を一つの発言としたものである。

#### 4.3.2 コーパスによるロジックモデルの作成

##### 4.3.2.1 トピック抽出

次に、各まちづくり懇談会、各ワークショップにおいて、頻繁に使用された単語（述語以外）について、探索し、その議論において、関心の高かった中心的な話題をトピックとして抽出する。抽出方法として、**TF・IDF** 法を使用した。**TF・IDF** 法について、以下で説明する。

##### 《TF・IDF 法》

**TF・IDF** 法とは、分析対象とする議事録と参照コーパスを比較し、参照コーパスよりも高頻度で生起する単語を、重要度の高い語として抽出する方法である。つまり、分析対象とするコーパスにおける中心論題（トピック）を抽出し、参加者の関心の高い問題を調べる手法である。

分析対象コーパスの単語  $i$  の出現頻度（Term Frequency ; **TF**）に対して、参照コーパスにおける単語  $i$  の出現頻度に基づいて算定された重み（Inverse of Document Frequency ; **IDF**）をかけてその単語の重要度を表す **TF・IDF** 値を導出する。

算定式は以下の通りである。

$$\text{TFIDF} = \text{TF}_{ij} \times \text{IDF}(i)$$

$$\text{IDF}(i) = \log(N/\text{dfi}) + 1$$

（ $\text{dfi}$  が高いほど、 $\text{idf}(i)$ （**IDF** 値）が低くなる）

- ・  $\text{TF}_{ij}$  : 分析対象の議事録  $j$  に含まれる  $i$  単語の頻度
- ・  $\text{dfi}$  :  $N$  の中で  $i$  単語が使用されている議事録の数

- ・  $i$ =分析対象議事録に含まれる単語
- ・  $j$ =分析対象議事録
- ・  $N$ =参照コーパス（ $j$  議事録を含む）

参照コーパスは、当コーパスを含まない公共プロジェクトに関わる討議の議事録 100 個を無作為に選んで作成した。これらの議事録は、自然言語、多数の発言者、公的談話という特徴を持っている。

このように導出される  $TF \cdot IDF$  値は、全ての議事録  $N$  の中の  $i$  単語を含む議事録数が少ない ( $IDF$  値が高い) ほど、分析対象議事録中の  $i$  単語の頻度が高い ( $TF$  値が高い) ほど、 $TF \cdot IDF$  値が高くなり、 $i$  単語は分析対象  $j$  議事録において、関心が高く、重要単語として考えられる。

ここで、各 WS、各まちづくり懇談会の議事録から抽出されたトピックを表 3-1 で示す。ここでは、各ワークショップ、まちづくり懇談会の議事録を総合し、分析した「全体」、3 回のしごとワークショップの議事録を総合した「しごとWS」、くらし・たのしみワークショップの議事録を総合した「くらし・たのしみWS」、そして、各ワークショップ、各まちづくり懇談会について、分析したものがある。

表 4-1 トピック上位20位

## トピック上位20位

\* 小学生

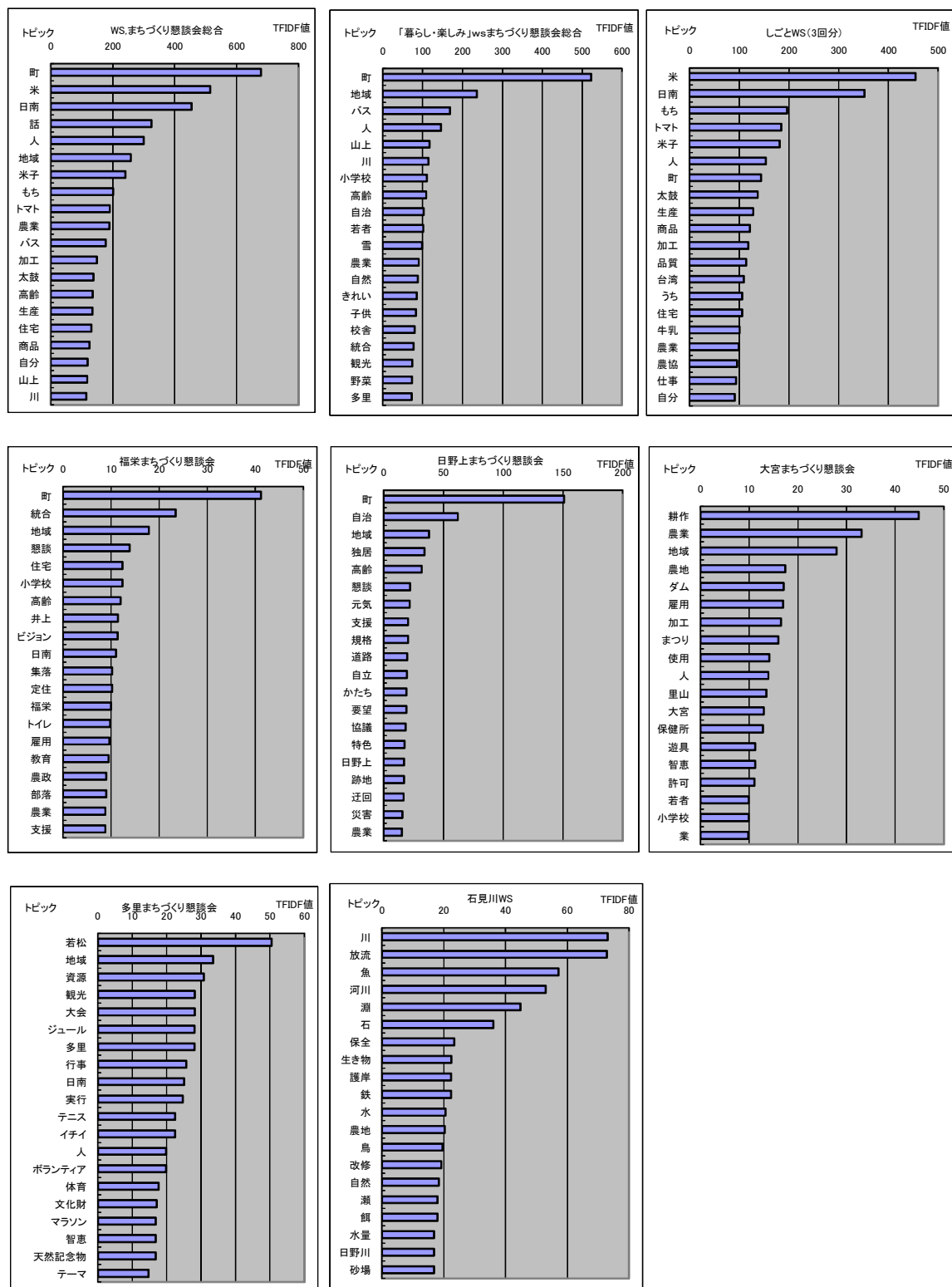
将来の夢等

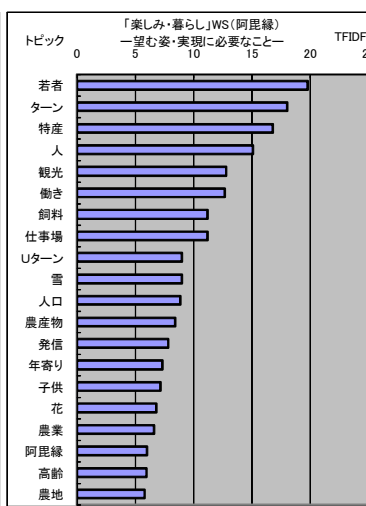
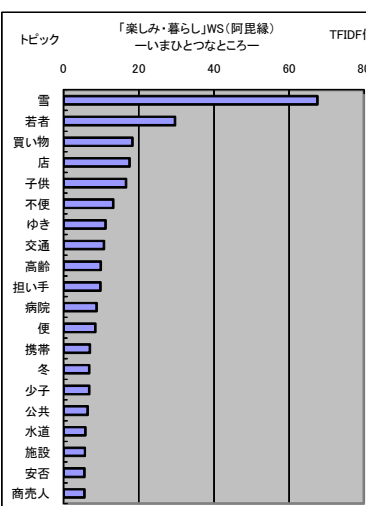
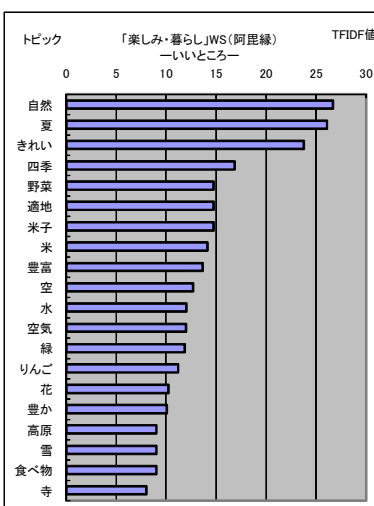
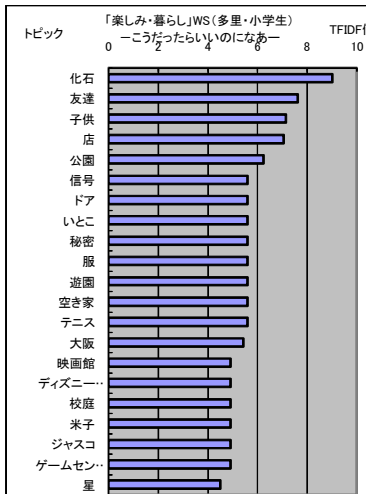
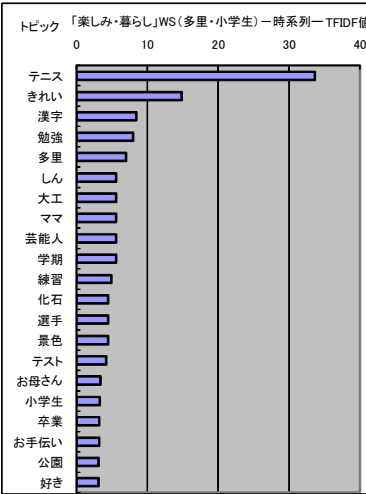
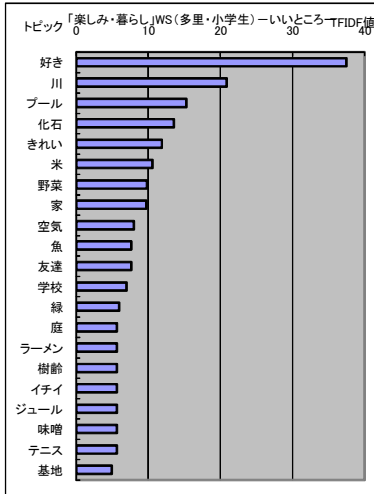
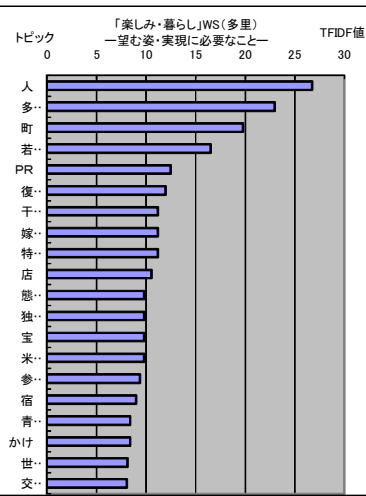
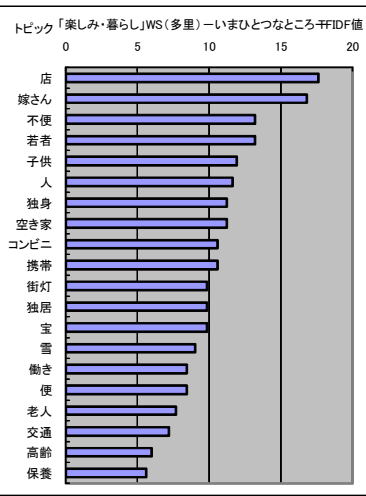
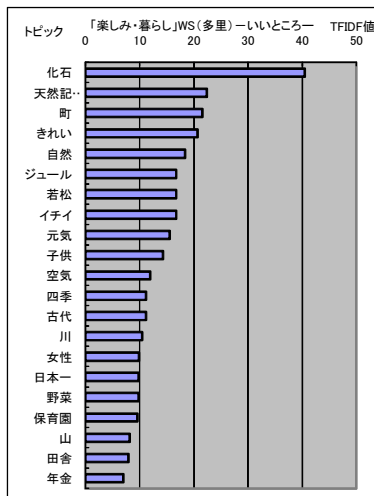
多里がこうだった! 多里の好きなところ

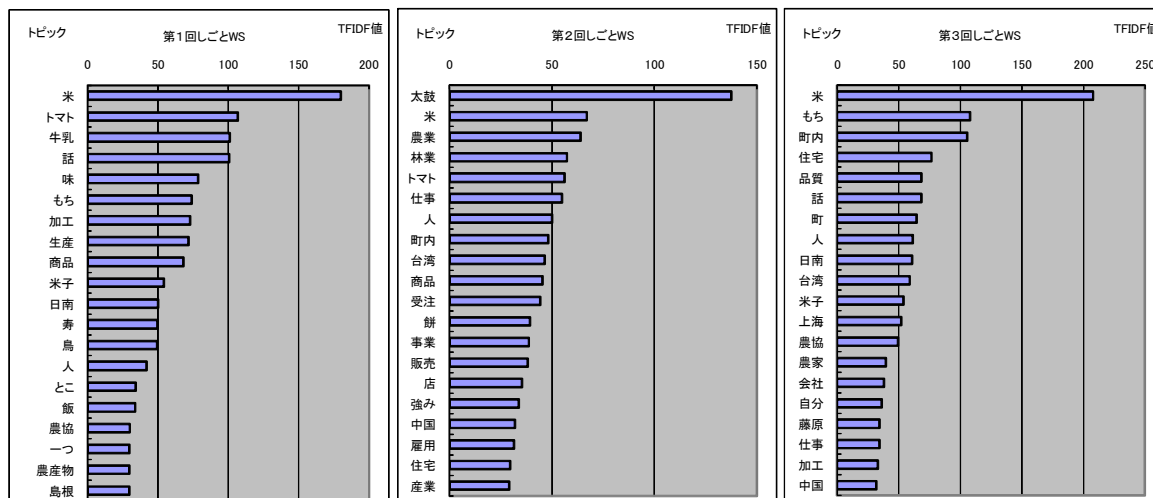
	全体(20回)	しごとWS	暮らし・楽しみしごとWS1	しごとWS2	しごとWS3	多里WS(小)①	多里WS(小)②	多里WS(小)③	福栄	大宮	日野上
1位	町	町	町	町	町	多里	子供	好き	町	町	町
2位	人	人	地域	人	米	テニス	化石	川	地域	地域	地域
3位	地域	米	人	事業	人	きれい	店	プール	統合	農業	自治
4位	米	事業	多里	仕事	住宅	勉強	人	学校	福栄	大宮	日野上
5位	事業	自分	バス	うち	事業	漢字	多里	多里	人	人	高齢
6位	農業	仕事	高齢	農業	自分	ママ	友達	家	行政	耕作	支援
7位	自分	生産	自治	太鼓	もち	卒業	公園	きれい	計画	雇用	協議
8位	多里	うち	小学校	自分	購買	化石	大阪	人	教育	整備	道路
9位	バス	農業	川	米	仕事	プリント	プラネタリウム	米	高齢	事業	組織
10位	高齢	住宅	自然	産業	会社	水	映画館	化石	支援	管理	整備
11位	仕事	商品	整備	会社	方法	小学生	駄菓子	一緒	住宅	協議	教育
12位	生産	会社	教育	建設	お金	大学	交通	野菜	小学校	農地	自立
13位	うち	もち(米)	農業	販売	品質	ねえさん	八百屋	魚	校区	国	計画
14位	自治	米子	環境	商品	福祉	大工	ナイター	空気	雇用	ダム	元気
15位	住宅	加工	行政	米子	農協	ピアノ	ダイソー	校区	事業	加工	災害
16位	山	トマト	子供	林業	木	選手	信号	緑	農業	行政	独居
17位	一緒	販売	支援	風	台湾	自然	ドア	友達	福祉	法人	農業
18位	自然	品質	統合	木	システム	馬乗り	無料	町	地元	制度	行政
19位	米子	木	交通	関係	上海	景色	小学校	山	ビジョン	環境	規格
20位	協議	農協	事業	山	中国	自分	お手伝い	校舎	国	お金	住民
なりた姿(そのた いまひとつなところ よいところ)											
	多里	石見	石見川WS	山上	阿毘縁	多里WS①	多里WS②	多里WS③	阿毘縁WS①	阿毘縁WS②	阿毘縁WS③
1位	町	町	川(河川、石見)	バス	地域	人	人	町	人	雪	自然
2位	地域	地域	魚	町	農業	多里	店(コンビニ)	自然	阿毘縁	若者	夏
3位	多里	校舎	環境	地域	人	町	子供	化石	若者	子供	きれい
4位	人	小学校	放流	負担	小学校	地域	交通	きれい	Uターン	交通	水
5位	資源	人口	水	山上	米	声	不便	子供	観光	高齢	人
6位	委員	介護	保全	センター	苗	若者	若者	鉱山	人口	買い物	米
7位	鉱山	役場	自然	検討	阿毘縁	交流	高齢	元気	環境	店	豊か
8位	観光	統合	整備	路線	統合	自分	嫁さん	人	農業	不便	緑
9位	若松	管理	石	協議	和牛	充実	老人	船通山	道路	病院	交通
10位	奥出雲	石見	淵	人	ピーマン	PR	施設	山菜	働き	施設	花
11位	大会	高齢	上石見	議論	教育	教育	携帯	川	高齢	人	空
12位	連携	販売	農地	自治	野菜	観光	独身	地域	発信	役場	野菜
13位	行事	対策	地域	生活	法人	サポート	バス	源流	子供	学校	空気
14位	ボランティア	避難	県	教育	つながり	自然	車	天然記念物	特産	冬	適地
15位	交流	バトロール	改修	道路	事業	道	グループ	水	施設	水道	四季
16位	山	保険	堰堤	住民	世代	確保	街灯	女性	豊か	担い手	米子
17位	クローム	改築	山	改善	町	店	資源	山	魅力	人口	山
18位	日本	自治	事業	小学校	改修	復活	独居	環境	声	携帯	生活
19位	行政	災害	生き物	交通	一緒	世代	空き家	木	収入	廃家	高原
20位	国	教育	対策	町営	加工	高齢	雪	空気	地域	嫁	静か

地域  
人  
資源  
自然  
米子  
仕事/事業  
文化・スポーツ  
インフラ  
災害

また、表 4-1 で示した各トピックの頻度を TFIDF 値で示したものを **グラフ 4-1** で示す。TFIDF 値が高いほど、参照コーパスに対して、頻度が高く、議論の場での参加者の関心が高いと判断される。







グラフ 4－1 トピックと TFIDF 値

#### 4.3.2.2 共起単語抽出

さらに、各発言中でトピックと共に使用されている単語を抽出する。ここでの「各発言」とは、議事録内を句点「。」で区切った一つの文章を一つの発言、「単語」とは、感動詞や接続詞以外、主語、述語、修飾語となり得る自立語である。表 3－1 で示した各トピックについてそれぞれ共起単語が複数抽出されている。共起単語は全て原形で抽出されている。例えば、「ある」「あった」「あって」という単語は全て、「ある」という一つの単語として抽出される。

#### 4.3.2.3 語句の抽出

各発言中で「トピック＋共起単語」と共に生起した語句を抽出語句とし、ロジックモデルの各項目の作成につなげる。

#### 4.3.2.4 とりまとめ（案）の作成

ワークショップを実施し、以上の手法で抽出した「抽出語句」から、図 4－1 の「30 年後の日南町の姿プロジェクト」一次とりまとめ（案）を参考に、新たなロジックモデルを作成したものが図 2－1 「30 年後の日南町の姿プロジェクト」とりまとめ（案）である。

このとりまとめ（案）を作成する際、付録 2 「議事録ーロジックモデル対応表」でロジックモデル各項目、発言、見出し（抽出語句）の一覧を作成した。ロジックモデル各項目は図 2－1 の「30 年後の日南町の姿プロジェクト」とりまとめ（案）に対応している。この一覧は「WS、懇談会」＝「どの会合で」、「発言者」＝「誰が」、「議事録対応」＝「ど

のような発言をし」、「見出し（抽出語句）」＝「そこからどのような内容を抽出し」、ロジックモデル各項目を作成したかを示す表となっている。

#### 4.4. ベースライン評価指標・アウトカム指標について

ここでは、ベースライン評価指標とアウトカム指標について、説明する。

##### 4.4.1 ベースライン評価指標

ベースライン評価指標は、図2－1「30年後の日南町の姿プロジェクト」とりまとめ（案）における、現状（2006年）の欄にある、「人口減少」「高齢化」「就業・産業構造」「自治体の単独自立」「地域・団体の推進役（東ね役）の弱体化」の各項目について、検証すべく、指標を収集した。これを以下の図4－1で示す。

ベースライン項目	指標		データ元
<b>●人口減少</b>			
就学・就業による18～24歳人口の社会移出	15～24歳人口転出 (日南町:18～24歳転出(各歳データ) 18～24歳人口	○ △ ○	住民基本台帳 住民基本台帳 国勢調査
生産年齢層（15～64歳）の減少	15～64歳人口	○	国勢調査
合計特殊出生率は比較的高水準で推移	合計特殊出生率	○	人口動態
<b>●高齢化</b>			
65歳以上人口の実数は減少へ	65歳以上人口	○	国勢調査
75歳以上人口の増加	75歳以上人口	○	国勢調査
<b>●就業・産業構造</b>			
製造業・建設業・小売業の業績悪化			
製造業、建設業	工業製品年間販売額(百万円)	○	工業統計
小売業	商業年間商品販売額(小売+卸)	○	商業統計
農林業の高齢化	後継者数	○	農林業センサス
農業	従事者年齢	○	農林業センサス
林業	後継者数	○	農林業センサス
	従事者年齢	○	農林業センサス
新規就業者の町外移出	15～24歳人口 (日南町:18～24歳転出(各歳データ))	△	住民基本台帳
<b>●自治体の単独自立</b>			
新型交付税等の未確定要素	地方交付税	○	市町村別決算状況調

図4－1 ベースライン評価指標



#### 4.4.2 アウトカム指標

アウトカム指標では、ベースライン評価指標は、図 2－1 「30年後の日南町の姿プロジェクト」とりまとめ（案）における、「地域の取組みテーマ」「地域の取組みの方向性」の各項目について、指標を定めた。これら指標を以下図 4－2 で示す。

図４－２ アウトカム指標

アウトカム項目	アウトカム指標	統計指標	データ元	備考	アウトカム項目	アウトカム指標	統計指標	データ元	備考
●しごと									
	町民所得 若者定着率 新規就業者数  【資源を生かした】 農業:作付面積 林業:町内林の利用高(オロチへの材供給) 工業:町内資源の利用率 商業:町内製品の販売高 人:労働力率	課税対象所得 18~24歳人口 18~25歳人口転出  作付面積  工業製品年間販売額 労働力率	○ 市町村課税状況等の調 ○ 国勢調査 △ 住民基本台帳 ▲ 労働力調査  ○ 農業センサス  ○ 工業統計 ○ 国勢調査		産業の後継者   働き盛りの就業の場づくり   勉強する産業  奥日野日南町ブランドの地場産業の成長	雇用形態 業種  若手の働き手 就業者数 町内で働く就業者数 町内で働く町民数 町外からの就業者数  年齢別 労働力率 労働力人口  新しい取り組み数 商工会議所や町等の助成・支援事業の利用件数	45歳以下就業人口 18~24歳就業人口 18~24歳人口  従業地による就業者数 自市区町村で従事してい 他市区町村からの通勤者  65歳以下就業者人口 15歳以上人口 労働力人口  □ □	○ 国勢調査 ○ 国勢調査 ○ 国勢調査  ○ 国勢調査 ○ 国勢調査 ○ 国勢調査  ○ 国勢調査 ○ 国勢調査 ○ 国勢調査  □ □	統計でみる市町村 統計でみる市町村 統計でみる市町村       商工会議所、町

アウトカム項目	アウトカム指標	統計指標	データ元	備考	アウトカム項目	アウトカム指標	統計指標	データ元	備考
●暮らし					全ての人が暮らしやすい環境づくり	施設やショッピングセンターからの距離・時間			
						通院者、入院者、要支援要介護認定者数	通院者、入院者、要支援要介護認定者数	△	介護保険事業状況報告書
						夕食を家族でろって食べる人(中学生)の割合	夕食を家族でろって食べる人(中学生)の割合	△	
						1日1回は家族で楽しく食事をしている人の割合	1日1回は家族で楽しく食事をしている人の割合	△	にこにこ健康にちなん
					家族・地域団らんの目標値に対する達成率	家族と会話のある中学生の割合	家族と会話のある中学生の割合	△	21
						健康についての話ができる家族の割合	健康についての話ができる家族の割合	△	
						家族であいさつをする人(中学生)の割合	家族であいさつをする人(中学生)の割合	△	
						趣味や楽しみをもって生活をする人の割合	趣味や楽しみをもって生活をする人の割合	△	にこにこ健康にちなん
					生きがい・ゆとりの目標値に対する達成率	現在の生活に満足している人の割合	現在の生活に満足している人の割合	△	21
						家庭の仕事を分担している人(中学生)の割合	家庭の仕事を分担している人(中学生)の割合	△	
						朝食をとらない人の割合	朝食をとらない人の割合	△	
						バランスのとれた朝食をとっている人(中学生)の割合	バランスのとれた朝食をとっている人(中学生)の割合	△	
						塩分の摂取に問題のない人の割合	塩分の摂取に問題のない人の割合	△	
						野菜を毎日食べる人の割合	野菜を毎日食べる人の割合	△	にこにこ健康にちなん
					食生活の目標値に対する達成率	1週間に1回以上、家族で調理する人(中学生)の割合	1週間に1回以上、家族で調理する人(中学生)の割合	△	21
						寝る前に歯磨きをする人(中学生)の割合	寝る前に歯磨きをする人(中学生)の割合	△	
						毎食後の歯磨きをする人の割合	毎食後の歯磨きをする人の割合	△	
						虫歯患者率	虫歯患者率	△	
						一人平均虫歯数	一人平均虫歯数	△	
					運動の目標値に対する達成率	意識的に運動をしている人の割合	意識的に運動をしている人の割合	△	にこにこ健康にちなん
					子供から大人まで皆が健康	運動習慣のある人の割合	運動習慣のある人の割合	△	21
						毎年健康診断をいける人の割合	毎年健康診断をいける人の割合	△	
						健康チェックの目標値に対する達成率	睡眠不足や起床時の疲労感のある人の割合	△	にこにこ健康にちなん
							事業所での健康についての学習機会	△	21
							肥満者の割合	△	
						たばこの目標値に対する達成率	分煙に取り組む施設数	△	にこにこ健康にちなん
							喫煙率	△	21
							未成年者の喫煙率	△	
							毎日飲酒する人の割合	△	
							2合以上の飲酒を行う人の割合	△	にこにこ健康にちなん
					お酒の目標値に対する達成率	お酒の適量を知っている人の割合	お酒の適量を知っている人の割合	△	21
							未成年者の飲酒率	△	
							大人が子供に飲酒を勧める割合	△	
					教育機関における福祉教育(障害者への)の充実	福祉講話等学習機会数	福祉講話等学習機会数	△	日南町障害者福祉計画
						障害児とのふれあい機会数(ボランティア含め)	障害児とのふれあい機会数(ボランティア含め)	△	
					障害者スポーツ・文化活動の振興	各種スポーツ、文化活動参加者数	各種スポーツ、文化活動参加者数	△	日南町障害者福祉計画
						教育相談窓口の利用者数	教育相談窓口の利用者数	△	
					障害者の教育・育成事業	通常保育の障害児童の受入数	通常保育の障害児童の受入数	△	日南町障害者福祉計画
						社会教育施設の利用者各種講座数・参加者数	社会教育施設の利用者各種講座数・参加者数	△	日南町障害者福祉計画
					障害者の社会参加機会数	障害者の就業者数	障害者の就業者数	△	日南町障害者福祉計画
					障害者の雇用促進	母親学級・育児学級等開催数・参加者数	母親学級・育児学級等開催数・参加者数	△	母子健康計画
					障害の防止・早期発見	子供の健康診断受診数	子供の健康診断受診数	△	母子健康計画

[illegible]

アウトカム項目	アウトカム指標	統計指標	データ元	備考	アウトカム項目	アウトカム指標	統計指標	データ元	備考
●たのしみ									
	町内滞在時間 (通勤時間の減少)	自市区町村で従事している就業者数 他市区町村への通勤者数	○ 国勢調査 ○ 国勢調査		集客交流の拡大	町内小売の売上高 宿泊施設利用者数 町外からの来訪者数 町外からのインターネットアクセス数	商業年間商品販売額(+)	○ 商業統計	
	可処分時間数	休暇取得率 通勤時間			芸能文化スポーツの活性化	文化的イベントの回数(行政機関提供) 町内図書館の蔵書・DVD数 各種活動参加者数 各種活動の開催頻度	文化的イベントの回数(行政機会提供) 町内図書館の蔵書・DVD数		
	家族や仲間と過ごす時間数	健康			豊かな自然環境の活用 文化後継者の確保	自然を活用した行事・イベント 各種活動参加者・リーダーの年齢構成	自然を活用した行事・イベント数		
	健康寿命 家族人数 65歳以上の親族のいる世帯数	二世帯・三世帯世帯の割合	○ 国勢調査 ○ 国勢調査						

図 4 - 2 アウトカム指標 (案)

## 5. おわりに

付録2「議事録ーロジックモデル対応表」からわかるように、これまでのワークショップでは議論されていない項目もある。このような項目に関しては、主観的に作成したものであるが、重要であると考えたものである。そのため、今後のワークショップで議論していく必要があると考える。また、新たなベースライン評価やアウトカム指標については、現状を把握したうえで、今後具体的な数値目標をたて、ロジックモデルを具体化する。

\*付録１・・・各ワークショップ、まちづくり懇談会発言議事録  
別ファイルにて添付している。

\*付録２・・・議事録ーロジックモデル対応表  
以下、議事録ーロジックモデル対応表である。

ロジックモデル各項目	見出し	発話場	発話者ID	発言
地域の取り組みの方向性				
産業の後継者の後継者確保(1-1)	子に継いでもらいたい 後継者が少ない	しごとWS① 多里WS	A	親がやっててそれを受け継いだってところが非常に多くて、ついでくれたらいいなという気持ちがある 後継者が少ない
働き盛りの就業の場づくり(1-2)	働き場所としての仕事  雇用できない 働き場が少ない 働き場が少ない 仕事欲しい 仕事場を作って欲しい 若者の職場がない 働き場が少ない 人の働き場が多く欲しい 町じゃもう職がない 町では仕事ができない	しごとWS①  しごとWS① 多里WS 多里WS 多里WS 阿毘縁WS 阿毘縁WS 阿毘縁WS 阿毘縁WS 多里WS しごとWS②  しごとWS① しごとWS①	B  C  D  E F	働き場所としての仕事というものを一つはしっかりと考えていかなければいけない 雇用っていう大袈裟なこともできない 若者の職場がない 働き場が少ない 働き場が少ない 若者が帰ってきて欲しい 人の働き場が多く欲しい 仕事欲しい 仕事場を作って欲しい 事業場が少ない 事業が減ってきてですね、収益が減ってくる、というのは非常に加速度が増している、というのが現状で、たぶんこのままいくと、30年後はほんとにまあ、それはそれでいいと思いますが、誘致の話も必要になる、ことも考えなければならぬ 町じゃもう職がない 町ではほとんど仕事ができない状態というのが目の前にある
農家の意識の向上(1-3)	がんばったら報われる制度が必要	しごとWS②	D	がんばったら報われる制度をきちんとやっとかないと
奥日野日南町ブランドの地場産業の成長(1-4)	日南町の米は負けない  ブランド化はいまからでも可能 町内特製品を町外へ販売  町内資源の発掘 ブランド化はできていない	しごとWS①  阿毘縁まち懇 しごとWS②  しごとWS② しごとWS③	A  G H  D F	産業や農業いろいろがんばってはいるんですけども、一つお米なんかにしたって、日南町のお米はまけるものではない ブランド化は今からでも遅くはない 資源を活用して町内から町外へ売っていく方法をどうってことですけれども、売っていく方法っていうものは、町内の特産品である 発掘できればいいんじゃないか ブランド化といっているだけでもできていない
子供から大人まで暮らしやすい環境づくり(1-5)	子供が少ない 若者が少ない 人が少ない	阿毘縁WS 阿毘縁WS 阿毘縁WS		子供が少ない 若者が少ない 人が少ない
子供から大人まで皆が健康(1-6)				
地元消費志向・地産地消(1-7)				
一生現役・老後の就業の場作り(1-8)	生涯現役夢づくり			
高齢者の安心・安全の確保(1-9)	高齢者独居の不安  声かけ運動やパトロールが必要  高齢者の状況把握、支援	石見まち懇 日野上まち懇 日野上まち懇	I J K	高齢者が、訪問販売や家のリフォーム、押し売り、振り込め詐欺への不安や独居である 人が増えていることをふまえて、声かけ運動やパトロールなど、やはり考えていかなければいけない 高齢者の状況を24時間把握するのは困難なので、日々状況を見ていただいている中で、支援が必要状態じゃないか
新規居住の流入の受け入れ(1-10)	住宅の必要性  雇用による居住が必要 若者への嫁が欲しい 人を呼び込むことが必要 人が欲しい	しごとWS①  しごとWS① しごとWS① 多里WS 多里WS	L  L E	人は家族もちで子供も家族とともあがってきたいということだったんですから、当然30代だし大変いい方かなと思ってましたが、なかなかこちらで就職してもらうまでにはハードルが色々ある 人を雇ってもいいとは思いますが、それが通われてしまったらあまり面白くない 人も減ってくんやったらよんでこないといけな 人が欲しい 若者へのお嫁さんがほしい
集客交流の拡大(1-11)				
芸能文化スポーツの活性化(1-12)		しごとWS①	M	そういった意識を持って太鼓に取り組むっていうのはさっき言った地域の文化っていうのとの関係があることだと思うんですよ。
豊かな自然環境の活用(1-13)	環境を活用したい 自然を活かした遊び場がない 自然に触れ合う環境がある 自然による環境の適地	しごとWS① 多里WS 多里WS 阿毘縁WS	C	環境のことにする何かないか 自然をいかした遊ぶ場所がない 自然にふれあえる環境がある 自然があり、観光の適地である



文化後継者の確保(1-14)				
町イノベーションをもたらす取り組みの方向性				
◎人財づくり◎				
町づくり、町興しのキーマン・発掘・育成(2-1)				
地域を考える意識改革・人材づくり(2-2)	地域を思う人は戻る 人づくりはまちづくりの土台	大宮まち懇 日野上まち懇	N O	地域を思う、気になるということになれば、ひとりふたり三人と戻ってくるのでは 取り組みの姿勢や文化の香、「人づくりはまちづくり」の土台もあるので。
農業後継者育成(2-3)	高齢化により耕作不能 農業の担い手が少ない	阿毘縁まち懇 阿毘縁WS しごとWS③	G  B	高齢化が進み、耕作できなくなってきつつある 農業の担い手が少ない 町の農家の方で70歳以上の高齢者で今現在後継者と同居していない、一緒にいないという方の農 地でこれから誰かが受けていかなければいけない
人材の獲得・マッチング(2-4)	人材の獲得	しごとWS①	B	いろんな人がきて欲しい
町外ネットワークの活用(2-5)				
◎動機づくり◎				
福祉サービスの充実(3-1)	一部高齢者をサポートする制度がない 地域での互助しかない  便利な地域に施設を	石見まち懇 石見まち懇 石見まち懇	K K I	介護保険の対象にならない要介護高齢者をサポートする制度はない。 地域での互助しかない 便利な地域に施設をつくって、困ったときにはそこに入られるんだという選択肢を考えておかないとい けないのではないのか。
シルバー環境づくり(3-2)				
コミュニティによる教育力(3-3)	まちづくりを通した教育	多里WS		町づくりは人づくり、心育である。
防犯対策・災害対策(3-4)	防犯パトロールをやって欲しい 防犯戸締りに重点	石見まち懇 石見まち懇	P P	防犯パトロールをやって欲しい 防犯取り締まりに重点をおいてほしい
伝統・文化の継承(3-5)				
新規居住者の住居確保(3-6)	条件にあう住宅がない  住宅がない 移住者の住む場所がない	しごとWS①  しごとWS② しごとWS②	L  M N	人は家族もちで子供も家族とともあがってきたいということだったんですから、当然30代だし大変 いい方かなと思ってましたが、なかなかこちらで就職してもらうまでにはハードルが色々ある 住宅がない 町に来ていただいた方に住んでいただく場所がない
娯楽環境の整備(3-7)	店がほしい	多里WS 多里WS 多里WS 多里WS 多里WS 多里WS	     小学生	店が欲しい 店が欲しい 店が少ない 店が少ない 店がない 店がほしい
◎コミュニティづくり◎				
世代間交流・連携(4-1)	ひとりぼっちにしない 高齢者の参加	多里WS 多里WS		人を一人ぼっちにしない 高齢者にも参加してほしい
若者のためのサポート軍団を組織(4-2)				
皆で育てるコミュニティビジネス(4-3)				
◎付加価値づくり◎				
マーケティング、商品開発を継続 的に(5-1)	商品がない 特産品が必要である 自社製品を売る経験がない	しごとWS① しごとWS① しごとWS①  しごとWS②	F O B  P	商品はない 商品化されない 林業も加工したものを売っていくという部分があると思いますし、自分とこの自社製品を売っていくと いう今までの経験が無いというお話をされたと思うんですけど、それはやはり日南町の農業につ 町内から町外へ売っていく方法をどうやっていくことですので、売っていく方法っていうものは、町 内の特産品である
販売サービスの進化(5-2)	販売が難しい 町内の品を町外へ売る経験がない  中間を省く  儲けをよそにとられている  販売でいきっていく体質ではない 日南町の物産を町外に売る	しごとWS① しごとWS①  しごとWS②  しごとWS② しごとWS③ しごとWS③  しごとWS②  しごとWS②	F B  D  D Q Q  D  D	販売していくということが非常にむずかしい状況である 特に日南町では、よそのものを買い込んできて町内で売るという商売はあるんですけど、町内のもの をよそに直接売っていくという風な外貨を稼ぐための商売というのがどちらかというと大きな組織 できれば何かみんなで知恵を合わせるところがあれば、例えば、台湾で出荷されたおもちにしても お米にしても、何だかって考えられるんじゃない 他の業者が販売に儲けをとっていないかという絶対とってますし、品質管理にとっていないかという と絶対とってますし、輸送にもとっていないかという絶対とってるわけです。 販売で生きていく体質になっていない 人を介さないように、売るということをしなないと、中間をとにかく省く、ということをしなないと、出てこない 農協と同じやり方をしてたんでは市場原理が全く入ってこない 町だけで、売れる売れないとかいっているのではなくて、とりあえず日南町の物産のあるもの全部を 出して、それを東京、上海、台湾、大阪などに売っていく方法はないのか、じゃあそれを作る方法は さんがいった方法でいいですから、それをたくさん作る方法はないのか

農業の付加価値化(5-3)	山、畑、田から何か生み出せないか	しごとWS①	C	山であったり、畑であったり、田んぼって言ってもなかなかないかもしれないけど、その中でも何か見出せないか
	町内の品を町外へ売る経験がない	しごとWS①	B	特に日南町では、よそのものを買い込んできて町内で売るといふ商売はあるんですけど、町内のものをよそに直接売っていくという風な外貨を稼ぐための商売というのがどちらかというと大きな組織任せになっていて、そういう経験が無いというのがあるってですね。
	新規農産物、加工品	しごとWS①	B	林業も加工したものを売っていくという部分があると思いますし、自分とこの自社製品を売っていくという今までの経験が無いというお話をされたと思うんですけど、それはやはり日南町の農業につ
	付加価値をつけた農業はできる	しごとWS①	C	農家と同じ農協と同じやり方をしてたのでは市場原理が全く入ってこない
	トマトジュース	しごとWS③	B	新規農産物であるとか加工品である
	もち	しごとWS②	D	トマトジュースとかに利用
	ブランド化はできていない	しごとWS② しごとWS③ しごとWS②	F F F	もちというのがある ブランド化といっているだけでもできていない 付加価値をつけて農業をということが日南町でできることではないか
持続可能で付加価値のある林業の	森林の加工	しごとWS①	B	林業も加工したものを売っていくという部分があると思いますし、自分とこの自社製品を売っていくという今までの経験が無いというお話をされたと思うんですけど、それはやはり日南町の農業につ
町内の店の多様化(5-5)	店がほしい	多里WS 多里WS 多里WS 多里WS 多里WS 多里WS	小学生	店が欲しい 店が欲しい 店が少ない 店が少ない 店が少ない 店がない 店がほしい
福祉サービスの提供の多様化・起業(5-6)				
新しい組織体の構築(5-7)				
町外市場への進出(5-8)				
セールのポイントの明確化(5-9)	昔からのものがたりを商品販売に利用	しごとWS③	E	町の昔からのものがたりがある
観光客の誘致・交流(5-10)				
◎健康づくり◎				
元気・健康サポート(6-1)				
◎交通づくり◎				
都市部からの好アクセス(7-1)				
都市部への好アクセス(7-2)				
災害に強い道づくり(7-3)	災害に強い国道	多里WS		災害に強い国道がない
暮らしを支える交通手段の確保(7-4)	バスの運行	山上まち懇	Q	地域にも試行的にでもバスを来させてほしい
	交通の便をよく	阿毘縁WS		交通の便をよくしてほしい
	交通を便利に	多里WS	小学生	交通をもっと便利にしてほしい
	山にバスを通してほしい	多里WS	小学生	山にバスが通ってほしい
	バスのこない集落	山上まち懇	Q	バスが来ない集落もある
	バスの維持が必要	山上まち懇	R	バスも維持しなければならない
		多里WS		バスの停留所がほしい
		阿毘縁WS		バス、電車が少ない
		多里WS	小学生	バスが通ってほしい
◎環境づくり◎				
親しめる川づくり(8-1)	川をきれいに	石見川WS	S	川をきれいにしないといけない
	川の蘇生	石見川WS	S	川を蘇らせようではないか
	川遊びから楽しさをしる	石見川WS	A	川あそびを通して川の楽しさを知ってほしい
	虫や魚のいる川に	石見川WS	A	川も虫や魚がいるということがよい川である
	自然再生	石見川WS	T	WSの位置づけは自然再生であり、過去に河川改修などによって失われた自然を取り戻すためである
		多里WS	小学生	川がきれいなところである

町特有動植物の保護活用(8-2)	豊富な資源 山、花見山、ブナの木 地域で行う希少動植物の保護 カタクリの群生 原生林 イチイ	多里まち懇 多里まち懇 多里まち懇 多里まち懇 多里まち懇 山上まち懇 山上まち懇 多里WS 福栄まち懇	U V W Q Q X Y Y	地域は豊富な資源がある 地域資源について長期ビジョンがある 人などに「珍しいね」「いいものがあるね」と言われて値打ちにと気づくことが 山や花見山があり、大きなブナの木がある 山には、原生林として二次林なんですけどクマザサがあってモミジがあり、ミズナラがあり、ブナがある 地域で希少動植物を守っていくということで、保護管理の案があれば補助がある 資源であり財産である 山にかたくりの群生がある 植物がいろいろある
森林の活用保全(8-3)	森林の整備 林業 森林が豊富 太鼓の木材	しごとWS① しごとWS① 多里WS 多里WS しごとWS①	L O O	森林の整備をしていかななくてはならない 人か帰ってきて実際職を見つけて働いている同級生もいるんですけど、林業なんていうのはできる 山がある 山がある 太鼓の木材がある
遺産(化石・鉱山)の活用(8-4)	若松鉱山 文化財 ノジュール	多里まち懇 多里まち懇 多里まち懇 多里まち懇 多里WS 多里WS	Z AA AA Q	山の廃鉱跡について、中海テレビで放映されてからホームランドにも問い合わせがたくさんある 文化財がたくさんある 文化財、ノジュールは町の天然記念物である 資源として活用できるものとしては、若松鉱山は高いレベルのものである 化石がある 化石がある
資源(山、川、田、人)を活かした 産業の進化—資源を無駄にしない 持続可能な産業—	資源が活かされていない 産業の発展が必要不可欠 資源を活用した町興し 資源を活用した流通	多里WS しごとWS① 大宮まち懇 しごとWS②	E U AB	資源が活かされていない 産業経済の発展がないかぎり、いろんなすべての機能が低下するんじゃないか 地域資源を活用したまち興しということでは、これからが始まりではないか 資源を活用して、町内・町外の流通を考えようというのが一つのテーマにしよう、何があるか
安心・安全な暮らしができる町		阿毘縁まち懇 阿毘縁まち懇 多里WS	AC U	安心して過ごせる環境が整備できない 安心して安全に暮らせなくてはならない 安全である
日南町のスタイルを誇りとし、発信 する町	地元への誇り不足 人情 人の協力がある いろいろな体験ができる 地元を知らない PRの仕方を知らない 日南町の特色を出す	多里WS 多里WS 阿毘縁WS 多里WS 多里WS 阿毘縁WS 福栄まち懇	D Y	地元への誇りが足りない 人情味もある 人の温かみがある 人の協力がある 田舎だけいろいろな体験できる 人情がある 地元が地元のPRの仕方、地元を知らない 地域が高齢化、過疎化の中で頑張っていくには、日南町は日南町の色を出していかなければいけな

わたしたちにできること				
個人				
人財づくり				
動機づくり				
声かけによる地域内での関係づくり 伝統・文化を習う	声かけ運動 友人関係の確立 あいさつを大切に あいさつ、声かけを積極的に かしら打ちを習う	多里WS 多里WS 多里WS 阿毘縁WS 多里WS		声かけ運動でひとりぼっちにしない 心配ごとの相談できる友人関係の確立 道ですれ違う人との挨拶を大切にする あいさつや声かけを積極的に行う かしら打ちを習う
コミュニティづくり 様々な場への積極的な参加 参加しない人とのコミュニケーション 死ぬまで現役の考え方を大切にする 新チャレンジに対して応援する気持ちを持つ	参加してみる 参加しない人も大切にする 死ぬまで現役 いくつになっても自分の役目をもつ 干渉しない 陰口を言わない 役割分担・認識 プラス思考になる 他人事の考えをやめる いろいろな立場・考え方を認める 頑張りを認める 失敗を許す 批判しない	多里WS 多里WS 多里WS 多里WS 多里WS 多里WS 多里WS 多里WS 多里WS 多里WS 多里WS 多里WS		とりあえず参加してみる 参加しない人も大切にする 死ぬまで現役の考え方 いくつになっても自分の役目をもつ 干渉しない 陰口を言わない 役割分担・認識 プラス思考になる 他人事の考えをやめる いろいろな立場・考え方を認める 頑張りを認める 失敗を許す 批判しない
付加価値づくり				
健康づくり				
交通づくり				
環境づくり				
地域				
人財づくり				

<b>動機づくり</b> 独居老人と地域・離れた家族との 連絡網等による連携の確保 IUターン者への地域での働きかけ 孤児施設を作る 冬場のグループホームを作る 地域での結婚サポート体制づくり	連絡網の確保 離れた家族との連携 IUターン者を発掘し、皆で呼び掛ける 孤児施設 冬場のグループホーム 地域で若い人にお嫁さんを世話をする	多里WS 多里WS 阿毘縁WS 阿毘縁WS 阿毘縁WS 阿毘縁WS		独居老人の連絡網の確保 独居の人の家族との連携をとる IUターン者を発掘し、皆で呼び掛ける 孤児施設をつくる 冬場のグループホーム 地域で若い人にお嫁さんを世話をする
<b>コミュニティづくり</b> 趣味のサークル作り 青年団の活用 学校・地域・家庭を一体とした教育 体系の見直し 町協の活動・他組織との交流の幅 を広げる 地域ぐるみでの伝統・文化の習得 多里資料館をつくる 地域行事の復活 高齢者との積極的な関わりによる コミュニケーションの輪を作る PTA世代を中心とした交流づくり 多様な立場に合った取り組みの推 ボランティアによる地域への手助 けを行う	趣味のサークルを作る 青年団の活用 家庭教育の見直し 教育者の教育 町政と町協との交流づくり 町協の充実 他の自治会と交流する 地域内かしら打ち人口を増やす 多里資料館をつくる 秋祭りの相撲復活 高齢者の意見を聞く機会をつくる 年寄りの人に昔話をしてもらう 高齢者の元へ出かけ、話を聞く 互いに助け合う仕組みを作る PTA世代の積極的な取り組み 勤め人に合った取り組み方 助け合い 車に乗れない人への奉仕活動	多里WS 多里WS 多里WS 多里WS 多里WS 多里WS 多里WS 多里WS 多里WS 阿毘縁WS 阿毘縁WS 阿毘縁WS 阿毘縁WS 阿毘縁WS 阿毘縁WS 阿毘縁WS		趣味のサークルを作る 青年団の活用 家庭教育の見直し 教育者の教育 町政と町協との交流づくり 町協の充実 他の自治会と交流する 地域内かしら打ち人口を増やす 多里資料館をつくる 秋祭りの相撲復活 高齢者の意見を聞く機会をつくる 年寄りの人に昔話をしてもらう 高齢者の元へ出かけてたくさんよい話を聞く 互いに助け合う仕組みを作る PTA世代の積極的な取り組み 勤め人に合った取り組み方 助け合い 車に乗れない人への奉仕活動
<b>付加価値づくり</b> 自然を活かした産業・遊びの考案 日南町の利点を活かした都市との 体験塾を開く(農業、林業、自然) ペットの墓地をつくる 農業の世代間相互扶助組織の構築	自然を生かした産業・遊べる施設 都会との交流 体験塾を開く(農業、林業、自然) ペットの墓地をつくる 農業の相互扶助組織を	多里WS 阿毘縁WS 阿毘縁WS 阿毘縁WS 阿毘縁WS		自然を生かした産業・遊べる施設 都会との交流 体験塾を開く(農業、林業、自然) ペットの墓地をつくる 農業の相互扶助組織を
<b>健康づくり</b>				
<b>交通づくり</b> ごみの追放 行政への懇願体制づくり 地域による道路周辺の整備	ごみの追放 崩壊箇所については一年以内に行政に 花づくり、道路周辺の整備	多里WS 阿毘縁WS 阿毘縁WS		ごみの追放 崩壊箇所については一年以内に行政に懇願 花づくり、道路周辺の整備
<b>環境づくり</b> 花壇などによる非農耕地の活用	非農耕地を花いっぱいにする	阿毘縁WS		非農耕地を花いっぱいにする

《参考文献》

- 1) 政策評価論授業『社会資本マネジメント論』
- 2) 市民参画型道路計画プロセス研究会『市民参画の道づくり』株式会社ぎょうせい  
(平成 16 年 3 月 20 日)